

USCPA は働きながらでも十分合格できる資格です。

M.N さん FAR : 2回目、BEC : 2回目
REG : 3回目、AUD : 3回目

.. 1

しっかりと準備が出来れば合格出来ます

T.W さん FAR : 1回目、BEC : 2回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

.. 2

試験当日に記憶を MAX にすることが重要です。

長瀬 隆二 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 3

日々是努力。アラフィフでもなんとか出来ました！

K.O さん FAR : 4回目、BEC : 3回目
REG : 3回目、AUD : 3回目

.. 4

Stand up. You're Not Alone

米嶋 真冬 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 5

**一度挫折しましたし、その間にテストの形式も
変わりましたし、年もとりましたが..**

稲葉 竜博 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 6

**受験者の半分が合格する、だからみんなが確実に
とってくる個所を確実にとる。**

K.I さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

.. 7

努力は必ず報われます！海外在住でも全く問題なし！

S.N さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

.. 8

**学習に停滞期はつきもの。諦めなければ合格で
きる試験です！**

村田 麻子 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 9

知識全体をメンテナンスし続ける仕組みづくりが重要

坂東 彰良 さん FAR : 1回目、BEC : 2回目
REG : 3回目、AUD : 2回目

.. 10

「なぜ USCPA を目指すのか？」初心を決して忘れずに。

天野 晃 さん FAR : 1回目、BEC : 2回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

.. 11

TAC で勉強すれば合格できます！！

吉田 映美 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 12

正直の頭に神宿る

K.Y さん FAR : 3回目、BEC : 4回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

.. 13

「1年で決める！」短期合格を目指して...

Y.W さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 14

BECKER の直前対策が秀逸でした。

M.I さん FAR : 1回目、BEC : 2回目
REG : 4回目、AUD : 2回目

.. 15

効率的に勉強して、短期間で合格しましょう！

N.U さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 16

自分自身を超えましょう！

波多野 正樹 さん FAR : 1回目、BEC : 2回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 17

信念さえあれば。

菅野 真智子 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 18

**受験手続はお早めに！TACを信じて合格するこ
うができました。**

風間 亜紀子 さん FAR : 2回目、BEC : 2回目
REG : 2回目、AUD : 2回目

.. 19

**努力は必ず報われます。あきらめないで学習を
続けましょう。**

小島 伸司 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

.. 20

こつこつと勉強

M.N さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 21

今始めるなら USCPA

小野 孝晃 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

.. 22

諦めなければ必ず合格できます。

岡崎 高之 さん FAR : 4回目、BEC : 4回目
REG : 3回目、AUD : 4回目

.. 23

**努力は決して裏切らない。諦めない。諦めない。
諦めない。**

佐藤 雅則 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 24

目標とスケジュール管理と諦めないで続けること

清水 謙樹 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 25

やるべきことと期限を明確に

M.I さん FAR : 1回目、BEC : 2回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

.. 26

平日の朝の時間を有効に活用

M.S さん

FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

..27

MBA と U.S.CPA を同時並行

矢口 光彦 さん

FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 2回目、AUD : 3回目

..28

TAC × Becker を選ばない手はありません。

角川 靖朗 さん

FAR : 1回目、BEC : 2回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

..29

あきらめたらそこで試合終了です

K.O さん

FAR : 1回目、BEC : 2回目
REG : 5回目、AUD : 3回目

..30

勉強のスケジュールをきちんと立てて、合格を目指して頑張ってください！

祝 誠俊 さん

FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

..31

TAC 講義・問題集のみで一発合格は十分可能、プラス BECKER で完璧

H.N さん

FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

..32

日米の公認会計士試験に合格したことで、自分の可能性を更に広げることができました！

荒木 雄祐 さん

FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

..33



USCPA は働きながらも十分合格できる資格です。

M.N さん

慶應義塾大学 2002年卒業
勤務先：銀行

2012年11月 USCPA試験合格（メイン州）

FAR：79点（2011年5月／2回目）、BEC：79点（2012年11月／2回目）

REG：76点（2011年11月／3回目）、AUD：82点（2012年7月／3回目）

※ BEC:失効80点（2010年11月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

- ・ 経理・財務部門でニューヨーク支店の税務（申告、税務調査対応）、IFRS（国際会計基準）の影響調査等を担当しており、体系的な必要知識の習得。
- ・ その後、転職し、行内でのキャリアアップ等を目的（現在のところ、行内での活用を検討）。
- ・ 教育訓練給付制度の有効活用（2007年9月までは支給要件期間5年以上の場合、給付率40%（上限20万円））。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

- ・ 大学のゼミで会計学を履修。
- ・ 日商簿記1級、CIIAR（国際公認投資アナリスト）資格を保有。
- ・ 銀行での経理・財務業務の経験（学習開始時は1年5か月、現在は7年9か月）。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

過去に利用経験あり（証券アナリスト講座等）。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

- ・ 試験範囲・出題形式の変更への対応が早く、きめ細やかだった。具体的には、新試験対策特別講義（FAR試験範囲の変更（IFRSの追加）にかかる対応）、5年間継続再受講制度（BEC試験範囲の変更（Operation Management、Corporate Governanceの追加）・出題形式の変更（WCの追加）にかかる対応）。
- ・ 受験等に関する照会対応。
- ・ 試験範囲、出題形式や受験要件の変更等にかかる情報提供機能。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

- ・ DVD通信講座。
- ・ 2007年春夏入学。その後、リーマン・ショック対応や転職があり学習を中断。2009年10月より本格的に学習開始。集中した学習期間は、3年2か月。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

- ・ 全般的には、Becker等での問題演習が中心。初期の頃は、TACテキストを軸としたインプット中心に学習。ただ、点数が思うように伸びず、アウトプットに注力すべきと考察。問題演習の時間を増やした。
- ・ 仕事と学習の両立のため、休日（土日）の集中学習、すき間時間の有効活用に関心掛けた。
- ・ 科目別は次のとおり。
 - FAR：TACテキストを軸としたインプット中心に学習（結果的には合格したが、点数が思うように伸びず、アウトプットに注力すべだったと考察）。
 - BEC：MC・WCともにBecker等の問題演習を中心に対策。WCについては、40題程度の解答例文を暗記。

- REG・AUD：MC・TBSともにBecker等の問題演習を中心に対策。その際、テキストを横に置き、深い理解（一部応用力）を問われるTBS対策として、間違えた問題に関する必要知識の習得。
- ・ なかでも、合格水準までの到達に時間を要した対策は、①REGのTBS、②AUDのTBS、③BECのWC。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

- ・ 試験範囲・出題形式の変更。具体的には、FARの試験範囲（IFRSの追加）、BECの試験範囲（Operation Management、Corporate Governanceの追加）・出題形式（WCの追加）等。
- ・ メイン州の受験要件の変更。新しく科目合格した場合、その科目の合格期限まで旧要件で受験可能となり、影響なし。
- ・ リーマン・ショック（2008年9月）：仕事が繁忙となり、学習時間の確保が困難。
- ・ 転職（2009年10月）。
- ・ 東日本大震災の影響（2011年3月）：仕事が繁忙となり、学習時間の確保が困難。
- ・ 結婚（2011年6月）。
- ・ BECの失効（2012年6月）：モチベーションの著しい低下。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

- ・ 時間とお金がかす限り、たくさん受験する。理由は、有する学力が合否のボーダーラインの場合、問題との相性に合否が左右されることがあるため、受験機会を可能な限り確保する。
- ・ 特に社会人の場合、次の点を推奨する。
 - 仕事の両立が必要であり、時間的な制約がある場合、1科目ずつ確実に合格を目指す。ただし、初回受験時のみ、同時もしくは同じWindow内での2科目合格を目指す。（科目合格の有効期限切れ対策）
 - DVD通信を推奨する。理由は、自分で進捗管理を行う必要があるものの、自分のペースで視聴できる。また、内容によっては、1.4倍速で視聴可能等の利点がある。
 - 中長期的な計画（3か年程度）でUSCPA取得を目指す余裕がある場合、全科目のDVDを一周見てから、最初の科目を受験する。理由は、失効のリスクを回避するため。失効はモチベーションの著しい低下を伴う。
- ・ 最後に、受験におけるリスクを認識する。具体的には、試験制度等におけるリスク（試験範囲、出題形式や受験要件の変更等）、受験勉強継続にかかるリスク（社会人の場合、仕事との両立環境・学習時間の確保等）。ただ、多くは不可避なものであり、学習を進めていく上で一定程度覚悟する。

しっかりと準備が出来れば合格出来ます



T.W さん

1982年生まれ

横浜市立大学 2006年卒

勤務先：日系上場企業で連結決算業務に従事中

※2科目合格時点で転職

2012年11月 USCPA試験合格（メイン州）

FAR：84点（2011年5月／1回目）

BEC：75点（2012年11月／2回目 ※1回目Expire）

REG：82点（2012年8月／1回目）

AUD：82点（2012年2月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

前職は商社で営業をしていましたが、何度か他国の同世代の人々（中国人、台湾人、韓国人など）と一緒に仕事をする機会がありました。その時に彼らの能力の高さとそれが彼らの意識の高さから来ているということを目の当たりにして漠然とした危機感を持ったのがきっかけです。国内と海外の垣根がどんどん無くなっていくだろう5年、10年後を見据えて、自分の強みというのが絶対に必要だと感じました。もともと海外志向だったこともあり多少英語が出来たことと、会社員として企業で働く中で会計に興味を持ったこともあり、英語+会計を学べる資格としてU.S.CPA取得を決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記3級、会計には苦手意識がありました

英語知識：学生時代に1年程度の海外経験があったため、

TOEIC 800程度

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

学生時代に友人の何人かがTACの公認会計士講座を受講しており、資格=TACというイメージがあったためまずはTACの説明会に参加しました。説明会の内容から、TACには合格に必要なノウハウが揃っていると感じたため受講を決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

- ・講師の方々が、非常に自信を持って講義をされていたため、この講義が理解出来れば合格出来るだろうと信頼出来たところ
- ・制度変更に対するフォローが素晴らしかったです。2011年からの新試験制度に関してもタイムリーにキャッチアップすることができました
- ・BECKERを使用出来たところ

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

2010年春入学の通学コースで学習を始めました。学習期間は2年8ヶ月でした。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全科目をとおして以下の方法で学習しました。

- (1) TACの講義を受ける
- (2) マイノートを作成し、講義内容を自分が一番じっくりくる形式にまとめなおす → FARの公会計およびTAXは内田先生のまとめノートをフル活用しましたが、それ以外については全範囲についてノートにまとめなおしました。勉強時間の多くをこれに費やすことになりましたが、ノートをまとめる時点で各論点について自分が一番理解しやすい形式で整理することが出来、体系的な理解や直前期の見直しに非常に役立ちました。短期間で効率的に学習したいという方にはあまりオススメ出来ませんが、わたしのような初学者でひとつひとつ理解しながら進めたい方にはひとつの方法だと思います。

(3) BECKERを解く（MC対策）→これは多くの方が実践している方法だと思いますが、問題を解く際に、「本番で出題されても解ける=A」、「もう一度確認する必要がある=B」、「理解できていない=C」というように各問題に自分で決めた記号を付すことで、限られた時間で効率的に問題演習を進めることが出来ると思います。また、AUDに関しては、各問題について解説もしっかり読んで理解したほうがベターだと思います。

(4) TBS/WC対策をする→自分の場合、(2)でマイノートを作成していたため、直前対策テキストではTBS対策のみ実施しました。ここでのポイントはTBS問題を解くための知識は(1)~(3)で身につけることが出来るということです。TBS対策すべきことは、出題形式に慣れておくくらいで本番でも対応可能ではないかと思えます。ただ、REGに関しては内田先生が仰っているとおり、フォーム作成問題用の対策をしておくべきかと思えます。なお、WC対策については帰国子女の方などネイティブレベルの方を除いてはやはりハンデにならざるを得ないかなと思えます。ここでも、回答するための知識はMC対策と同じですし、配点割合から考えてもこれにあまり時間をかけるべきではないのかなと思えます。ただ、本番で何をどう書いていいかわからないという状況は避けたほうが良いので、トニー先生のDVD講義を視聴して書き方のポイントくらいは抑えておくべきかなと思えます。

(5) FINAL EXAMを解く→これはTACのマニュアルにも記載されているとおり、本番を想定しての時間配分や初回受験の方は本番を疑似体験するという事に注力すれば良いと思えます。ここでの結果と本番の結果はあまり比例しないと思うので（理由はMCの難易度変化とプレテストが存在するため。FINAL EXAMはあくまで正答率。）、例え結果が悪くても気にする必要はないかなというのが感想です。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

合格された方の体験記を読んでいると皆さんいろいろなハプニングに遭遇しているため、事務手続きを行う際はいつも正確かつ迅速に処理されるか不安でしたが、幸い大きなトラブルには見舞われませんでした。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

この試験は科目合格に有効期限があるため、各科目の受験スケジュールを事前にしっかりと立てることをおすすめします。自分自身はこの当たり前のことが出来ておらず、最初にCreditしたBECを再受験することになってしまいました。どの科目も1発合格することが望ましいですが、不測の事態も考慮してスケジューリングすることが、準備としては理想だと反省を込めてお伝えさせていただきます。

最後に、この場をお借りして、わたしのUSCPA受験を支えていただいたTACの講師、スタッフの方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。



試験当日に記憶をMAXにすることが重要です。

長瀬 隆二 さん

1973年生まれ

勤務先：外資系企業

2012年11月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：90点（2012年5月／1回目）、BEC：90点（2012年5月／1回目）

REG：84点（2012年8月／1回目）、AUD：90点（2012年11月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

以前からU.S.CPAのことは知っていて興味があり、英語を使つての会計スキルを客観的に証明できる方法として有効なのでいつかは取りたいと思っていました。

社会人なので休みを取って海外に行って時間とコストをかけて取らなければいけなかったため躊躇していましたが、昨年より日本受験が始まり、受験が身近になったためチャレンジすることを決めました。

試験に関しても基本をまんべんなく問う内容なので、今やっている業務にも直接役立つということが魅力でした。

今の業務としては管理部門に所属していて経理業務が主です。

に関してはAUDのみ問題数が欲しかったのでやりました。直前対策はだいたい1か月まえにDVDを視聴して取り組みました。

科目別ですが、FARに関しましては、草野先生の教え通り、まずはTACのテキストの問題と、TACの問題集をしっかりとやることを心がけました。先生のおっしゃられる通り、どれも良問でこれができれば本試験でも十分戦えるというまさにそういった印象を受けましたので、これを完璧にすることが重要だと思います。Beckerですが、私は問題を持ち運びもしたかった為、紙で持ち歩いて隙間時間にどンドン解いていました。

Beckerに関しては、同じ問題が連続することがありますので、問題を飛ばしながらやったり、ページを飛ばしながらやったり変化を付けて取り組みました。几帳面な方は、順番にやりたいと思いますが、結果的にはそれは非効率だと思いますので、1問飛ばし、もしくは1ページ飛ばして学習することをお勧めします。

BEC 授業で強調されたポイントには線を引いてその部分の理解に努めました。

MAについては阿辺先生のまとめノートが非常に役に立ちました。このポイントを押さえて後は問題を繰り返せば、MAについては本当に問題ないと思います。

Written Communicationについては、教材に例題がありますが、日本人向けの短いバージョンの模範解答を何度も音読して、さらに何回もタイピングして覚えました。

この演習によって、書き方や言い回し、どういふところが狙われるかがわかりました。結果としては本試験で3題中2題はしっかり書けたと思います。

REGは一番暗記が苦痛しました。内田先生の指導通り学習すれば問題なく合格点は行くと思います。直前対策が非常に役に立ちました。私の場合はSimulationが難しくてできた気がしなかったのですが、その分MCをしっかりと解き、合格できましたので、やはり基本をしっかり押さえるということが大事じゃないかなと思います。

BLは暗記が多いので、分厚いテキストを何度も読むような非効率なことをするのではなく、授業で線を引くと言われた部分と、授業でカバーされた部分に線を引いて、そこだけを何回もレビューをして暗記することに努めました。記憶のあやふやなところはノートに書いていきました。それを電車の中、寝る前にレビューしました。試験の当日に記憶をMAXにするというのが重要だと思います。

AUD この科目も、授業中に線を引いたところを2~3度読んで、暗記に努め、その後問題集に取り組みました。AUDのみBeckerのサプリメントもやりました。

試験日に記憶をMAXにするということを重視していたので、1か月くらい前にテキストを見直して、線を引いたところを確認し、記憶のあいまいなところに関しては、それをノートに書き出し電車や寝る前に繰り返し見直しをしました。

試験は全て日本受験で茅場町で受験をしました。スケジューリングですが、最初に2科目（FARとBEC）に合格できたことによって、REGとAUDを1科目ずつ学習する時間が取れましたので、expireの可能性も低くなり精神的にも余裕を持って取り組むことができました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力に関しては、TOEIC980点。業務でも日々使うので英語力は問題ありませんでした。留学経験はありませんが、かなり昔に1年くらい期間を決めて、英語力を高める為に1日2時間程度毎日英語力を入れた時期がありました。特にリスニングに力を入れ英語力を伸ばしました。

会計知識は、簿記二級程度の知識に加えて、連結、税効果、ヘッジ会計、管理会計、監査の対応等、ある程度幅広く経験がありました。外資系企業なのでJ-GAPP、IFRSでの両方の決算を担当しています。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

スクール選びですが、主にインターネットで情報収集をしました。各スクールを検討する際、合格者の体験記を読むと、そのスクールの特徴が良くわかるのでおすすめです。体験記を読むと、TACのテキストと講師陣が良いということが分かったので、TACに決めました。

もう1社比較したところもありますが、そこはある程度、学習の内容を絞っている学校でした。ネット上で情報収集をしても、そこだと合格までの知識をまんべんなく学べるか不安だったため、TACにしました。結果としてはTACで大正解だったと思います。テキストも講師陣も他の合格者の方がおっしゃられる通り、本当に素晴らしかったです。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

教材、講師含め、非常に分かり易い内容でした。1度DVDを視聴すると、頭にスッと入ってくる授業とテキストの構成が良かったです。また、Simulation対策が試験直前の頭の整理に役に立ちました。

FARの内容は、実務で経理をしていますので、知っていることもありましたが、新しい視点からさらに勉強できるというところが面白かったです。REGの直前対策のまとめ教材はみなさんもおっしゃっていますが、フル活用しました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信DVDコース。合格までの学習期間は1年7か月です。学習時間：平日に関してはバラつきはありますが、平均2時間は勉強するように心がけました。これは通勤時間も含めてです。決算期は、帰日も遅くなるため学習時間を2時間も取れず、電車の中だけという形でした。講義は土日ではほとんどまとめて視聴しました。土日は4~5時間の学習を心がけました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全般的なことですが、どの科目もだいたいやり方は同じです。授業は1回のみ視聴と決め、倍速機能を活用して、内容に応じて、1倍、1.2倍、1.5倍と苦手分野、得意分野に合わせて視聴しました。

授業中に線を引いてくださいと先生が言うのですが、それ以外にも授業でカバーされた部分は全て線を引きました。レビューの際は線を引いてある所だけを確認することによって、時間の節約をしました。

一通り、暗記ができた段階で、TACのテキストの問題と、TACの問題集をやりました。問題集の解き方は田中先生の方法通り、分かった問題には○・正解したが不安な問題には△・分からなかった問題には×をつけ、できなかったところだけを3回解き直すという方法を取りました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験の手続きに関しましては、TACの受講生情報サイトにノウハウが詰まっておりますし、出願手続セミナーに出席してマニュアル等もいただけましたので、特に問題なく手続きをすることができました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

社会人の方ですと、勉強以外に時間を割かなければならないことが多々あると思いますので、忙しい中隙間時間をいかに有効活用して記憶を定着させるかがポイントだと思います。ここは工夫次第です。電車の中や、寝る前のちょっとした時間を有効活用してください。

試験合格のポイントとしては繰り返しになりますが、直前期に網羅的に知識を再確認して漏れを無くすことだと思います。

このU.S.CPA試験を通じて学習した内容は、監査の部分で特に役立っています。経理を担当していると監査について学習する機会はありませんが、AUDを順序立てて学習出来たことによって監査対応が上がりました。特に1つの問いに対して何が欲しいのか、または何を意図しているのかということがわかるようになりましたので日々役立っています。

今学習をされている方もこれから学習をされる方も、この試験は基礎的なことがまんべんなく出題される良い試験で働きながらでも十分に合格を狙える試験です。ある程度プライベートを犠牲にしなければならぬこともあるかと思いますが、合格までの辛抱と腹をくくって頑張ってください。

みなさまの合格を心よりお祈りしております。



日々是努力。アラフィフでもなんとかなりました！

K.O さん

勤務先：資産運用会社

2012年11月 USCPA試験合格（メイン州）

FAR：86点（2012年11月／4回目）、BEC：82点（2012年8月／3回目）

REG：81点（2012年5月／3回目）、AUD：75点（2012年5月／3回目）

・BECは1回目で合格しましたが2011年にExpireし、FARも2回目で合格しましたが2012年にExpire。結局トータルで6回の合格を頂きました。

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

30歳代半ば頃から会計・財務分析実務に関して体系的に学習してみたいと考えていましたが、仕事をしながら日本の税理士/公認会計士資格取得にチャレンジすることは非現実的に思われ悩んでいました。5年前に経理・財務の責任者となり、監査法人との交渉が多くなったことからU.S. CPA試験へのチャレンジを始めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語に関しては大学受験以降25年以上錆びついたままの状態。会計に関しては大学時代に一般教養で学んだ程度。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

業界大手で安心できること、説明会で相談した際の対応が良かったこと、校舎が通勤途上にあり通いやすかったこと、等からTACを選ばせて頂きました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

Becker社と提携して作成された教材はもちろんのこと、長期戦でのチャレンジを余儀なくされる私には「5年間継続再受講制度」が秀逸でした。最新の会計制度や法令に対応した教材を安価に入手できることで、安心して継続的な学習をすることができました。またWEBもとても充実していて重宝しました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信講座で学習しました。学習期間に関しては、一時期仕事の関係で受験ができずFARとBECを各々1回ずつExpireしてしまったこともあり、結局3年半ほどかかってしまいました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

はじめの半年程度は、毎週1～2日TACの校舎に通ってDVDを視聴しながらカリキュラムに沿って学習していましたが、仕事の関係で通学が困難になって以降はTACのテキスト＆問題集のみをひたすらやり続けました。全科目に共通する方法として、テキストに関しては一冊を最低でも3回以上読みこなすことを自分に課し、1回目は一つ一つ理解しながら丁寧に、2回目は全体像をイメージしながら弱点箇所を重点的に、3回目はインプットした内容の確認を主眼に、等毎回やり方を変えながら取り組みました。また会社からの帰路上

に有料自習室を借り、毎日1時間でも2時間でも必ず立ち寄って学習し、数ページ、数問でも前に進むよう心がけました。

〔科目別の学習法〕

〔FAR〕：FAR I、II、III（合併）は様々なパターンへの応用力が問われる為、何度も問題の解き直しをしました。政府会計とNPOは暗記力が問われるので、簡単なサブノートを作り、試験直前に短時間での確認ができるよう準備しました。

〔BEC〕：仕事と関係のある分野ということもあり、苦手のITを除いて、あまり時間をかけませんでした。

〔REG〕：分量も多く、結構苦勞した科目です。Taxはテキスト＆問題集を繰り返すことでなんとか克服できましたが、Business LawはA4で50ページほどのサブノートを作り、試験直前にはそれだけを何度も読み返して覚えるようにしました。

〔AUD〕：時間の制約からDVDを一度も見られなかったこともあり、最も苦手な科目にしてしまいました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

3年半に亘り何回も受験した立場で偉そうなことは言えませんが、いわゆる「試験慣れ」することも大事なような気がします。私自身は早いタイミングで一度受験してみたことで、以降の学習方法に工夫ができましたし、TAC&Beckerテキストさえマスターすれば絶対に合格できるという確信も得られました。あまり気負い過ぎず、マイペースで学習することが長続き（？）の秘訣だと思います（特に社会人の方）。



Stand up. You're Not Alone

米嶋 真冬 さん

1991年2月生まれ（21歳）
 慶應義塾大学 法学部政治学科 第四学年在学中（2013年卒業予定）
 勤務先：Big4Firm就職予定
 2011年11月公認会計士試験合格（大学三年在学中合格）

2012年11月 USCPA試験合格（アラスカ州）
 FAR：80点（2012年11月／1回目）
 BEC：77点（2012年11月／1回目）
 REG：77点（2012年11月／1回目）
 AUD：75点（2012年11月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

米国の会計や税法について勉強することを通じ国際的な専門性を高めたいと思ったことがU.S.CPA試験を目指したきっかけです。私は幸いにも大学三年次に日本の公認会計士試験に合格したのですが、その際に何か不完全燃焼感が自分に残っており新しい目標を探していたこともこの勉強を始める動機の一つになりました。数ある資格の中でU.S.CPA試験に焦点を絞った理由はこの勉強を通じ自分の専門分野が日本の会計、税法から日米の会計、税法へ、同時に活動範囲も日本から世界へと広がりうると考えたためです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語はもともと好きでした。また日本の公認会計士試験の勉強を終えた直後だったため、会計についての基本的な知識はありました。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

全99回に渡る講義など講座内容が非常に充実していると考えたこと、またBeckerと正式に提携している日本で唯一の専門学校であり、全米No.1シェアのBecker教材を使うのはTACだけだと考えたためです。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師の方が情熱的で本試験合格までの手続きのサポートも含めしっかりと支えて下さったこと、自習室が常時使用可能であったことは本当にありがたかったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学DVDの形を取りました。勉強期間は約10ヶ月です。途中、就職活動や自分の進路を考え直す時期が入り本腰を入れたのは8月以降になってしまいました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全科目共通して5月頃までに授業を全てDVDで見ました。6月頃から全科目の復習を始め、9月頃までにテキスト付属の問題集を2、3回転しました。当初の計画ではBecker問題集についても2、3回転することを目指していたのですが想像以上に復習に時間が掛かりBeckerに手をつける前に10月に突入してしまいました。本試験は11月に迫っていたためBeckerを何回転もする時間はないと思いこの時に一度勉強計画を変更し、Beckerは一度だけ解き、間違えた問題の解説のみを復習するようにしました。時間があれば絶対にBeckerも数多く回した方が良いと思うのですがとにかく本試験までの時間が限られていたこと、特にFAR、ECO、CG、IT、BL、AUDの文章問題はBeckerが解けるようになる以上にその解説にある知識を覚えて本試験で吐き出せることが何よりも大切だと考えたことから解説重視の勉強方法を取りました。Beckerを一度しか回さない勉強方法は不安だったのですが「重要なのはBecker問題集を解けるようになることではなく本試験に受かることのはずだ。」と自分に言い聞かせ、とにかく本試験での合格だけを意識することに集中しました。

また、短期合格の為に必要最小限のことだけを行うことが何よりも大切だと思います。その中で自分は「マーカーペンの色を工夫すること」と「手帳を上手く使うこと」を意識しました。マーカーペンの色と言われるとこの文章を読まれている方は少し戸惑われるかもしれませんが、私はマーカーを上手く使うことは極めて重要なことだと思っています。具体的には授業を受ける際に先生が触れた

論点については水色のマーカーで、授業中に先生が特に強調した論点や暗記が必要な事項は赤色のマーカーで色を塗ることで授業後にテキストを見直した際即座に重要性ごとに復習できるように意識しました。このようにすることで重要箇所への全体的な復習をしたい時には赤色のマーカーを塗った部分のみを辿り、より深く理解したい時は水色のマーカー部分まで読み込むように切り替えた復習ができると思ったためです。また問題集を解いて間違えた論点は逐次テキストに必要な知識を書き込んでいき、その後追加部分にダークブルーなどの平常時とは違う色を塗っていきました。そして最終的には復習の際は付け足したダークブルーの色のみを読み返す事で自分の間違えた論点、苦手な論点のみを短時間で復習し、必要最小限かつ効用の高い復習を目指しました。短期合格を目指す場合にはとにかく時間との戦いになると思うため、このような方法で時間を節約することは非常に重要だと思います。また手帳についてですが、日々の勉強記録を科目ごとに色を分けて（FAR：青、BEC：紫、REG：緑、AUD：黄色etc）手帳に記入していき手帳を見返した際に学習量が相対的に少ない科目、論点を一目で分かるようにした事も復習に役立ちました。これにより手帳を見直すことで手薄な科目や論点がどこかを視覚的に把握できるため次にどの範囲の復習をすれば一番効率的かを判断することができたからです。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

グアムにて約4日程滞在し四科目全て一度に受験しました。本試験受験までの単位取得や学歴審査の手続きが大変で、NTSが中々来ない際は直接NASBAの方と英文メールでやり取りをする必要がありました。程なくNTSの問題は解決したのですが、この際にもTACのサポートセンターの方がバックアップして下さいました。本試験受験までの手続きという点でもTACのU.S.CPA講座は充実しているため受講生の方は安心して本試験に望んで下さい。個人的にお勧めなのは試験会場のテストセンターの事務の方と仲良くなることです。試験会場運営の方々とお話することで2日目や3日目の試験の際には「これで中盤ね。excitingしてね！」「今日で最後なのね。頑張るってね！」という優しい言葉を掛けて頂きリラックスして本試験を受験することができました。緊張状態の連続では体が疲れてしまい集中力が持たなくなってしまうため、本試験にピンポイントで最高の集中を持っていくためにも試験直前には会場の事務の方と会話を楽しくむくむくの適度なリラックスが意外に大切なことだと思います。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

絶対に諦めないで下さい。U.S.CPA試験は他の試験と同じように英語力や知識、才能や能力などでは無く最後は気持ちの強さの勝負になると思います。仮に本試験でのボーダーを7.5とした場合、10の能力を持ちながら本試験で7の力しか出せなかった人間よりも7.5の実力を本試験で7.5出せた人間の方が生き残ると思います。私自身本試験直前のFinal Exam（最終模試）ではTACの予想合格ラインとされている6割に至らない科目もあったのですが、両親が与えて下さった時間とお金、何よりも勉強を志した当初の想いを考えると絶対に諦めたくありませんでした。最終的に本当に運と直感に助けられる形になったのですが、運と直感ですらひたむきに望み続けた者にだけ訪れると信じています。だからこそ絶対に諦めないで下さい。皆さんに素敵な未来が訪れることを、微力ながら、願っています。

最後になりましたが、阿辺先生や草野先生を始め支えて下さったTACの講師の皆様、家族、両親、私が弱気になっている時に檄を飛ばしてくれた友人、感謝します。本当にありがとうございます。頑張ります。



一度挫折しましたし、その間にテストの形式も変わりましたし、年もとりましたし・・・

稲葉 竜博 さん

1976年生まれ
青山学院大学 2001年度卒業
勤務先：PwC

2012年11月 USCPA試験合格（カリフォルニア州）
FAR：92点（2011年11月／1回目）、BEC：83点（2011年11月／1回目）
REG：92点（2012年11月／1回目）、AUD：85点（2012年7月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

新入社員として商社に入社し、エネルギー部門経理・貿易実務を学んだ後に、石油・ガス投資事業の部門に配属されました。当部門の投資は主に海外向け、目下案件も巨額で、営業部隊としても会計・税務・監査の知識が案件形成・運営の観点からとても重要でした。投資規模は小さくとも数百億円目線であった為、1%の見立てのズレが時に数億円もの予算との乖離を生みます。この影響や情勢変動をいち早く察知できるのは、やはり現場に近い営業部門であり、海外で展開される複雑なスキーム、その地域の会計基準、そしてそれが本社の連結決算上どのような影響を与えるかを説明するには、社内の経理部や主計部と同等レベルの高い財経知識が必要であったにもかかわらず、そのような「文武両道」的な社員は稀少でした。そこで、当時の部門の方針で若手社員にU.S.CPA講座を受講させ、仕事の質を高めようという事になり、参加してみることにしました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

大学時代にカナダに留学していたこともあり、英語のテストにアレルギーはありませんでした。TOEICなどのスコアは高かったものの、いざU.S. CPAの勉強や問題を解き始めると、必ずといっていい程、問題文の時点で「？？？」という事がよく有りましたが・・・。会計知識は入社するまではゼロでしたが、入社後、経理部門に配属になった事と、「商社不要論」が吹き荒れる時代に入社したこともあって、社内リストラがものごとく、人手不足で1年目から連結決算や国税局対応、先物取引管理など当時は意味不明だったのですが言われるままに仕事をしてい事を思い出します。ある意味、ものごとく現場で鍛えられたとも言えるかもしれません（笑）。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

法人契約でしたので会社にて選定があったのかと思います。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

実は講座を始めるまで、本当に仕事に活用が効くのか懐疑的でした。財経知識として勉強が必要ということも当然理解していたのですが、私が携わっていた事業投資は「現在から未来起こるイベント」の分析をどのように行つか、が主であり、U.S. CPA講座は「過去から現在までのイベント」をどのように表現するか、を勉強するものではないか？と思いついておりました。いざ講座が始まると「これやっている○○事業のことだな」と毎回のように出合いがありました。これまで勉強と実務は違う、というイメージが払拭できなかったのですが、初めて、すごく実務に基づいている勉強だな、とビックリしたことを覚えています。そのような教材作り、カリキュラムがあった為、私としては何かを新しく覚える、というよりは今日勉強した事を自分の事業に結びつけるという作業に近く、振り返ってみると、U.S. CPA講座は、ある程度現場やビジネスに携わってきた人にとってはもう一度、勉強を通して、自分のやってきた仕事を振り返れる「回想シーン」のようなものではないかと感じます。その過程で、「あの時のあれはこういう意味だったんだ」とか「あの先輩がいついたことウソだったな（笑）」とか色々思い出しながら、知識に深みや正確性を高めていけるところが非常に良いと思っています。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

実は、講座開始してから1度挫折いたしました（笑）海外出張が多い仕事で週末出発、週末帰りで、途中からまったく週末の講座に出席できなくなり、次第に勉強が追いつかなくなりました。数年間のブランクの後、U.S. CPAをやはりキチンと勉強したいという想いが再燃してきて（再受講制度を利用して）2011年4月から1から勉強しなおしました。講座に申し込んだのは2007年頃でしたが、集中的に勉強したのは2011年からの2年間でした。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

私の勉強方法で全般的に言えることは「講義を何回も聞く」という事でした。講座に出席して、DVDを借りてもう一度見て、電車で音声ダウンロードを聞く。3回目は音声だけでなく、頭に情景が浮かびます。非常に時間を割く勉強方法ですが、自分はこれが近道だと思っています。講師が強調したことや聞き漏らしてないかなど、最終的には黒板に書いてある事がイメージにわいてくるぐらいいつか見ました。この理由は先に書いた自分の1度の挫折と関係があります。毎週末6時間の講義を集中し続けることは私には不可能で、理解が乏しいままでもどんどん講義は先に進んでしまいました。また1週でもスキップするとなかなかキャッチアップできなくなりまして。ほとんど理解しないまま先に進みますとますます週末の6時間の講義はボーっとするものになり、結果にも頭に残らない、講師が説明している間はわかったような気になるのですが、次の日には記憶は飛んでしまっていました。その反省から、「今から勉強することは自分にとって初めての分野である」と思い込みました。初めての分野なので1回聞いてわかるわけない、何度も同じものを見て知識をちゃんと定着させよう決めました。最短合格etcなどのフレーズは忘れ、U.S. CPAの勉強は時間がかかるものと割り切りました。元来、勉強は得意な方ではなかった為、そういう意味では効率的に勉強した方より3倍時間を割いているかもしれません。しかし結果、基礎力が定着し、本受験時に応用問題が出題された際に「火事場の馬鹿力」が出ました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

先ず受験手続のエピソードから書きたいと思います。ご覧のとおり、私はカリフォルニア州を選択しました。はっきり言って、いばらの道です。先ず、TAC推薦州ではなかったため、手続きは自分で行いました。受験要件も厳しく、会計・ビジネス共に24単位以上で、単位の科目指定もあります。大学の成績に会計やビジネスの単位がない方はほぼ全てを勉強してからでないと本受験までたどり着けないと思います。自分の大学の成績表を見返し、ビジネスの単位は豊富にあったものの、会計に関するものを探すと「税務論」2単位だけ・・・これ、認定されるかな。。。と不安に思いました。試験合格を目指す方の最初の関門は「どの州にするか？」という事を早めに決めないと全体のスケジュールが立てづらいついていこうということかもしれません。恐らくある程度の単位取得が必要となり、その単位も3ヶ月で取れる最大の単位数の制約があれば、単位Aを先に取得しないと、単位B認定受験ができない、という制約もあります。

州を決め、必要あれば不足単位の取得、そして取る順番を綿密に計画立てないとまずまず思い通りに進まない気がします。そう思いつつもカリフォルニア州にしたのは、自分にとっては思い入れのある州や好きな州でないとちゃんと勉強続かないかと、思ったからです。私の場合、単位数が低いから、という理由でどこにあるかもわからない州を選択する気にはなれませんでした。これは人それぞれのお考え方があると思います。逆にカリフォルニア州にして良かった面として、単位数は初級→中級→上級と進むので、自分がどれくらい理解しているかを段階的に分析できる事、また単位認定試験もCBTなので本番前に何度も受験（体験）でき慣れることです。勉強を再開して3ヶ月後くらいからは毎週のように単位認定試験があったのですが、テストが定期的に差し迫ってくる事でそれに向けて一生懸命に準備することができたとも言えます。

次に本受験時のエピソードですが、テストは「難しい」です。私はCBTになってからの受験生なので、それ以前がどうだったかは知る由は無いのですが、個人的には本試験は（緊張のせいもあったとは思いますが）Beckerの final exam よりもはるかに難しく感じました。この理由にCBTは問題が解ければ解けるほど問題が難しくなり、そのまま選択問題を difficult ランクで超えること simulation 問題は、見た事がない、そしてかなりボリュームのある問題がズラリと並ぶのではないかと思います（私のケースではどの科目もそうでした）。そういう意味で時間配分の考え方も変える必要があると思います。3スレッド同じ時間分量で解くのではなく、難しくなることを前提としておくことと最初のスレッドはほぼ1問1分程度で解く勢いが必要で、残りの2スレッドは少し余裕を持たせた方が落ち着きます。採点されているかは別としてIFRS関連の問題はかなり（FARでは7-10問近く、AUDではISAの倫理要件しか出ませんでした）含まれて来ている印象があります。simulationでは論点的にはマイナーな分野がほとんどでした。私は全ての科目においてsimulationまでたどり着くとパニックが起きました。あまりに見た事がない問題すぎた事と時間が足りるか？という焦りによるものです。ひと呼吸してからは、確実にとれるところを取って部分点狙いに一旦は気持ちを切り替え、基礎的な問題を徹底的にやりました。焦りますので、よく見ると必ず基礎的な問題はあります。それを一旦全て埋めてからもう一度全体を見返すと、大分問題が違ってくるように見えてきました。見た事ない問題だが。。。ちょっとひねって面倒に思えるだけだ、と。基礎力の勉強を徹底しておかげで、基礎問題を落とさずしっかり埋める事ができ、それから応用問題箇所へチャレンジした際もその場でかなり回答が浮かびました。シンプルですが基礎をおろそかにせず、何度も何度も繰り返し確認したことが私のケースでは本番で力を発揮したという感じです。ちなみにどの科目も終わった際は受かったかどうかは確信持てませんでした。スレッドは確実に難しくなったからそこまでは良かったが、simulationはどういふ風に採点されるんだろうな。。。どの科目もこんな印象を持ちました。実際のテストの結果と自分のできた感とはかなりギャップがあったというのがこの試験の摩訶不思議なところでした。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

私は商社勤務を経て会計事務所へ転職したのですが、最近では会計事務所から商社等の事業会社に転職する方が増えている印象があります。一つの理由として事業会社が投資事業にシフトしている背景があり、財務会計に強い人材や国内外でも堂々と仕事ができる人材を求めているのではないのでしょうか。U.S. CPAを勉強しはじめた時は合格した人はその後は会計事務所か企業の経理部で仕事するのかな、と漠然に思っていました。恐らく、現状はそれのみにとどまらず、営業部や経営企画部など企業のほとんどの部門で必要とされる要素を含んでおり、活躍できるフィールドは広がるものと確信しております。また、全ての試験が終了してから気づいたのですが、U.S. CPAのテストは「スコアは問題の正解率と一致しない（Scores should not be interpreted as either the percentage or the number of questions you answered correctly）」という一文を発見してしまいました。。。とにか、難易度が高い問題に進むことが本試験ではkeyかと思えます。その方向にリードするには最初の基礎問題をいかに落とさない（＝基礎力の安定）が本試験の展開を左右する事になります。但し、難易度が高い問題に進んだ場合は、テキストのマイナー論点や時にテキスト/Beckerにも載っていないような問題もかなり出題されてきます。ですので、メリハリをつけて一通り基礎固めの学習が完了後は、(テキストで小さな字で書いてある)マイナー論点も必ずフォローした方がよいです。本試験中、自分が難しい問題(スレッド)に移った、というのは体感できます。それくらい問題はいきなり難しくなる感じがします。難しくなった問題の3分の1ぐらいは正直自分で解けたかどうか分かりませんが、simulationも大した手応えは無いものの合格ラインに達したということは、解けた場合は問題の配点割合が相当に高いに違いない、と自分なりに解釈しております。私はTAC/Beckerの教材だけしか学習してませんが、また最新の教材も使って見ましたが、それでもちゃんと合格できました。Beckerは細かいポイントまで記載していますが、日本人には慣れない章立ての構成になっているように思っています。それをTACのテキストは再構成して流れるように理解できるようにアレンジしてありますので、あれこれ考えず、経験豊富な講師陣の言う事をしっかりと聞いていただくと自然とチカラがつくのが良い点かと思えます。



受験者の半分が合格する、だからみんなが確実にとってくる個所を確実にとる。

K.I さん

1982年生まれ
早稲田大学 2005年卒
勤務先： 商社

2012年11月 USCPA試験合格（メイン州）
FAR：80点（2011年11月／1回目）、BEC：78点（2012年11月／1回目）
REG：85点（2012年5月／1回目）、AUD：88点（2012年5月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

日本の公認会計士試験 2次試験合格と同時にUSCPA講座を申し込みました。その目的は、他の2次試験合格者との差別化を図ること、英文会計に慣れること、及び海外での就業機会の可能性を拓くことです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語能力は学生時代から親しみがあつた程度。会計知識は、公認会計士試験 2次試験合格・日商簿記検定 1級合格程度。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

以前からTACを利用しており、自習室の使い方やその他様々な個所で利用方法がわかっていたため。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

一通り試験を受けてみて、そして合格してみても感じたことは、合格への鍵はTACのテキストに書いてあることをしっかりと身につけて、他のみんなが確実に取ってくるであろう個所を必ず正解することだったと思います。そのためには、特定の分野を深く掘り下げるのではなく、TACのテキストに書いてあること（時間の余裕がない人は講師が指摘した重要論点）をしっかりと理解して、問題集を最低一度は解くことで全ての科目に合格できたと思います。なので、TACのテキスト・問題集は合格するために必要十分であったと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で学習しました。TACに申し込んでから全科目合格までの学習期間は3年です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

私は日本の会計士試験 2次試験に合格してからUSCPAの勉強を始めており、同様のケースで勉強されている方を意識して以下を記します。

1. FAR

計算の出来でほとんど合否が決まる科目です。また、多くの個所が日本の会計基準と同じなので、日本の会計処理とどこが同じでどこが違うのかをまず明確に分けました。そのうえで、日本の会計処理と同じ個所については例題や問題集で簡単にチェックするにとどめ、日本の会計処理と異なる個所を重点的に計算練習しました。また、政府会計については全くの0ベースでしたが、内田先生のまとめ資料を通勤時に常に見ながら理解と暗記をしました。

2. BEC

出題範囲が広いために、出題比率が高い順に力を入れて勉強しました。原価計算やファイナンス等、日本の会計士試験で勉強したことがある個所は会計英語を覚えるつもりで、内容自体は復習をかねて簡単に学習しました。かといってこの個所が一番出題比率が高い分野なので計算や理論はしっかりと問題集で勉強することを勧めます。その他の経済やIT、コーポレートガバナンスについては苦手意識のある個所を中心に、Textの読み込みや問題集を進めました。興味のある個所は自然と勉強に費やす時間も多くなりますが、理解や暗記のスピードは苦手分野よりも早くできると思います。そのた

め、特にBECは得意分野に時間を使いすぎず、苦手だと思ふ分野を中心に進めることが得策だと思います。

3. REG

税務と法律の2分野に大きく分かれていますが、多くの方が力を入れる税務を完成させ、分厚いTextの割に出題が少ない法律分野に関しては、Textを読んで杉浦先生が重要と言った個所の理解に留めました。税務はFARと同じく内田先生のまとめ資料をひたすら細切れ時間に読み込み・覚えることで、苦手意識はなくなります。またSim対策については必ず行ってください。いくら知識があつても事前に対策をしていないと税務のSimは取りこぼしが出ると思います。

4. AUD

日本の会計士試験と内容はほとんど同じですが、保証業務や監査報告書の様式等、異なる個所もいくつかあります。そのためFARと同じく、どこが同じでどこが違うかを明確にして、違う個所を徹底的に覚えることが重要です。また日本の会計士試験で手薄となりがちな論点については一から勉強するつもりでしっかりと覚えなないと、そこでWeakの判定をされてしまいます。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続自体は何の問題もなく進めることが出来ました。また、不明な点についてはTACの相談メールを利用して即座に解決するようにしました。現在では日本受験が可能であり、ほとんどの方が日本で受験されていると思います。私が利用した茅場町会場は受付担当の方もゆったりとした方で、「時間ぎりぎりまで勉強させてください」と言うと、必ず配慮してくださりました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

1. いろいろな方がいろいろな勉強法を紹介していると思いますが、一番重要なのは（他人を参考にしなくても）自分で決めた方法で最後までぶれずに努力することが大事だと思います。友人と話していると「IFRSの問題がたくさん出る」や「ワイリーもやった方がいい」等不安にさせるやり取りが多々あると思います。そんな時でもしっかりと自分で計画を立てて自分にあった勉強法を進めることが一番の近道でした。

2. 一度不合格になるとどの分野がWeakだったかが記されたScore Reportが届きます。次に同じ科目を受けるときはWeakだった個所を徹底的に潰して下さい。そしてStrongだった分野には多くの時間を使わない！みんなが取れる個所をみんなと同じように取ることを最優先にして試験と戦えば必ず合格できます。

3. 日本の会計士試験に合格しているからと言って絶対に甘く見ない。上記と同じ理屈ですが、日本の会計士試験と重複する個所は他の受験生より抜きんでて得点できるかもしれませんが、USGAAP特有の論点で全く点が取れなければ間違いなく不合格です。そのため、「USCPA試験の一部についてはよく理解できている」というだけなので、USGAAP特有の論点については他の受験生と同様に一から勉強して基本的な個所で取りこぼしがないように対策しましょう。

4. 私は日本の会計士試験合格ののち、監査法人入所、結婚、子供の誕生と人生のイベントが続いて気がつけばTACで申し込みをしてから合格まで3年かかっていた。その都度「忙しい」や「疲れている」を理由に勉強をしなかった時期（特に入所から2年間程度）がありました。しかし、自分で好きで始めておきながら自分で言い訳を作って勉強しないのは仕事で配慮して頂いている同僚やいつも支えてくれている家族に対して失礼です。状況は千差万別だと思いますが、どんな状況に追いやられたとしても自分の描く将来像や家族への感謝の気持ちを忘れずに、「試験なんて早くうかってやろう！」という気概で頑張ってください。

努力は必ず報われます！海外在住でも全く問題なし！



S.N さん

1982年生まれ
早稲田大学 2005年卒
勤務先：商社

2012年11月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：86点（2012年8月／1回目）、BEC：80点（2012年8月／1回目）
REG：79点（2012年8月／1回目）、AUD：84点（2012年11月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

将来、健全な組織を運営する経営者になりたい、と思い始めたのがきっかけでした。商社に勤務しており、日本の本社から海外の事業会社に出向し、現在も駐在中です。出向先では日本人は私ひとり。本社との連携、予算/業績管理、営業、財務会計、与信管理、等の組織を跨る事業会社内の全体の業務を全般的に担当しています。出向先では現地の社長、財務責任者、営業部門の責任者と日々コミュニケーションをとって業務を進める必要があります。これを通じ、会社全体を運営していくことの難しさと共に、面白さを強く感じるようになりました。将来は、健全な組織を運営する経営者になりたい、という思いが強くなりました。一方、日々の業務の中で、特に財務会計に関わることになると、財務責任者の話についていけず、内容をよく理解できていない自分に強く危機感を感じました。入社以来、真剣に財務会計の勉強をしたことがなく、知識が大変乏しかったのです。健全な組織を経営していける経営者になるためには、営業方面だけでなく、基礎がしっかりした財務会計の知識も必要だと考えるようになり、今のうちに体系的に学びたい気持ちが強くなりました。せっかくならば勉強をするのであれば、相応の目標を持った方がやりがいを感じられると考え、色々と調べたところ、USCPA資格試験のことを知り、海外在住でも問題なく受講、受験できるため、これに挑戦しようと思を決しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：学習経験なし。日常業務を通じて少し触れていた程度。
英語知識：TOEIC®TEST 870点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

USCPAに興味を持ち始めたころ、一時休暇帰国の機会があり、たまたまその帰国中にTAC USCPA講座の説明会があったので、これに参加しました。阿辺 聡先生が大変わかりやすくご説明されており、説明会後の個別質問にも丁寧にお答えいただきました。また海外在住でもしっかり勉強できる体制になっており、サポートも充実していると感じました。以上から、勉強するならTACしかない！と思いました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

私の場合、海外在住受講生であり、また地方都市であったため、教材がちゃんと届くか、という点が一番心配でした。TACでは海外受講にもしっかり対応されており、結果的に教材の送付は全く問題なく、また海外在住ならではの色々な心配事にもしっかりご対応頂き、大変助かりました。

講師陣は、皆様プロであり、大変理解しやすかったばかりでなく、講義の合間にお話しいただいた、受験に対する心構えや、実務でのお話し等も大変興味深く、DVD講義が毎回大変楽しみでした。

教材は、TACテキストが大変わかりやすかったことに加え、Becker問題集が大変役に立ちました。Beckerはかなりの量でやりごたえがりましたが、おかげで様々な問題への対応力が養われたと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信（DVD・海外在住） 学習期間は1年6か月。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

学習開始前：学習を始めるにあたり、自分なりのスケジュール表をエクセルで作成しました（学習開始から本試験受験の月単位の全体スケジュールと、日単位の勉強スケジュール）。常にごこのスケジュールに沿って勉強が進んでいるかを確認しました。例えば、日単位のスケジュール表は、計画通りにクリアできればその日を青色に、できなければ赤に色づけし、自分が目標通りに出来ているか一目でわかるようにし、プレッシャーを与えるようにしました。ある意味、ゲーム感覚でやっており、楽しく学習を進める刺激にもなりました。受講時期：DVD講義を週末に2コマ受講、平日に講義で勉強した箇所の復習と問題集を解く、というペースを最後まで守りました。平日

は、朝自宅時間、朝通勤時間、会社でのスキマ時間（始業前、昼食中）、夜帰宅時間、夜自宅時間、と5個の勉強時間枠を設定し、どの時間に何をやるかを決めていました。これを頑なに続けたことで、しっかり勉強時間を確保することにつながりました。講義の復習と該当箇所の問題集は、必ず次の週末講義までに終わらすことをノルマとし、未消化のまま次の講義に進まないように気を付けました。

直前期：直前対策講座の受講、復習を実施。これに加え、Becker問題集に重点的に取り組みました。Becker問題集印刷版は切り離し小分けにすることができ、常に持ち歩くようにし、時間があれば数問でも解くようにしました。田中義徳先生のアドバイスに従い、解いた後に○△×を各問題にメモしておき、△と×の問題を何度も解くようにしました。印刷版で一通り解いた後は、PC版のSimulated ExamやProgress Testの機能を使い、ランダムに問題を解くことを繰り返しました。BeckerのFinal Examはすべて取り組みました。時間配分という観点で、特にFARとBECが厳しいな、という自分なりの感覚をつかむことができ、本番の為のいい演習になりました。内容はやはりやや難しく、6割～7割の正解率でしたが、あまり気にしないようにしました。テキストや問題集の他に、自分なりのノートを作成しました。A4の印刷用紙に、テキストを参考に論点を纏めていき、時間が空けばその自分ノートを見るようにしました。自分で書き出すことで、実は曖昧な理解だった論点に気づいたり、視覚的に論点を覚えることができたので、大変役に立ちました。また、問題集を解く中で、何度も間違える論点は自分ノートにポイントと問題番号を注意書きしておき、ノートを見直した時に気にならずに該当問題も見直して解き直せるようにしました。なお、TAXとFAR（NPA）は内田順子先生の直前対策纏めが非常に素晴らしく、自分ノートを作らずにひたすら直対を見るようにしました。内田先生の直対は、これがなければ合格できなかったと思えるほど素晴らしかったです。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続：TAC受講生サイトを参考に進め、全てスムーズに進みました。TAC受講生サイトで大変丁寧に説明されているので、これに沿って手続きをすれば全く問題ないと感じています。日本受験を選択しました。海外在住だったため、一時帰国できるタイミングが決まっており、できる限り早めの手続きを心掛けました。

受験時エピソード：8月の夏休み帰国休暇の1週間を利用して4科目全て受験しました。できるだけ科目ごとに集中したいと思い、1科目/日のペースで4日間にかけて受験しました。受け終わった後は、正直なところ、合格できたかどうか、感触がはっきりしませんでした。なんとなく、AUDは大丈夫だろう、FARとBECは微妙、REGはダメ、という感じでした。結果は、一番大丈夫だろうと思っていたAUDが1点足りず不合格、残りは通っていました。結果が出るまで分らない試験だな、ということを実感し、試験中に難しいと感じてもとにかく最後まであきらめずに問題に向き合うことが重要だと感じました。AUDは11月に短期間の一時帰国をして再度挑戦しました。8月の不合格後、自分ノートを一から作り直していくと、実は理解していない論点はまだあり、これでは受からないわけだ、と納得しました。気を引き締めて、約2か月AUDに集中し、結果的に11月に合格できました。この科目は大丈夫だ、という気の緩みや慢心が招いた不合格であったことを痛感しました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

TACの教材、講義を信じて、とことんやり抜けば、必ず合格できる試験だと感じています。学習中はしんどくなる時期もあるかと思いますが、学習を始めた時の目標を忘れないようにし、自分なりのモチベーション維持の秘訣を見つけ、とにかく続けることが大切かと思えます。また、もし海外在住で受験を考えている或いは学習中の方は、色々な悩みもあるかと思いますが、USCPAの受験は手続き面でもかなり柔軟だと思えますし、TACの強力なサポートもあるのも、最後はゴールにたどり着けると思えます。決して簡単な試験ではないと思いますが、必ず未来の自分のために決する挑戦だと思えます。皆様の努力が実を結ぶことを祈念しています！



学習に停滞期はつきもの。諦めなければ合格できる試験です！

村田 麻子 さん

津田塾大学卒業
勤務先：外資系企業

2012年8月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：83点（2012年5月／1回目）、BEC：80点（2012年5月／1回目）

REG：90点（2012年8月／1回目）、AUD：93点（2012年8月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学卒業以来、20年くらい外資系のアカウントティング、ファイナンスの仕事をしていましたので、USCPAの資格は知っていました。会社でU.S.CPAを取得している方もいらっしゃいますし、アカウントティングやファイナンスをより体系的に学ぶ上でいつかは取得したいと思っておりましたが、子供が当時小さかったことやアメリカに受験に行かなければいけないため、学習を断念していました。昨年より、日本受験が始まったということ、子供も大きくなりましたのでチャレンジすることに決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級と、BATICのアカウントティングマネジャーレベルを持っていました。

英語知識：普段から英語でメールや電話のやりとりをしています。英語は好きで、学生の時から勉強をしていました。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

TACは資格の学校として歴史があり評判も良いので、TACにしようと思っていました。入学の前にU.S.CPAの説明会に参加をして、そこでテキストの充実度やBeckerの教材を確認して、これなら合格まで十分な教材が揃っていると思いTACに決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

TAC独自の教材、そして講師の質が高いと感じました。私はDVDで学習をしたのですが、授業に出席しているような臨場感のある授業は素晴らしいです。通信DVDであるというDisadvantageは感じませんでした。特に内田先生のすごく熱の入った授業や、先生独自のまとめ教材が非常に役に立ちました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信で学習をしました。合格までの学習期間はちょうど1年くらいです。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

DVD講義は一度でなるべく覚えるように集中して観て、その後すぐに記憶に定着させるために問題集を解きました。

学習時間に関しまして この1年間は勉強に専念すると決めましたので、平日は3～4時間、土日は7時間程度勉強をしました。平日は朝早く会社に行って1時間、お昼休みに1時間、家に帰って1～2時間。土日は7時間の学習をしました。草野先生の教えに背いて、若干勉強し過ぎてしまったかもしれませんが。

テキストと問題集は持ち歩いていつでも確認ができるようにしていました。Becker教材は最初からPCで解き、最後に何回も間違えてしまう問題を紙で持ち歩いて勉強しました。Beckerは最初からPCで解いた方がデータも取れるのでおすすめです。実際の試験はBeckerと画面遷移や操作方法が一緒だったので、タイムマネジメントを含め焦ることも全くありませんでした。

（科目別に関しまして）FARは仕事のアカウントティングの延長でしたのでそこまで苦労はしませんでした。普段あまり触れない、リースの問題、ボンドの問題はしっかり講義を聞いて、何回も問題集を解きました。

BECはいろいろな科目が入っているので思ったより苦労しました。ITとコンプライアンスは記憶の部分が多いので割り切って覚え

てしまう方が良いかもしれません。本試験では記述問題がありますので、講義の説明通りポイントを書き出してそれを展開する方法で乗り切りました。実際には長い文章を書くことができなくて最低限のことしか書けませんでした合格できました。

REGはTAXもBLも初めて勉強する分野ですし量も多くて最初はひるんだのですが、内田先生のポイントを押さえた熱い講義と、学習が進むにつれ各単元のつながりが見えてくると基本的な考え方が分かってきて勉強が楽しくなりTAXが好きになりました。

BLは実は最後まではじめませんでした。テキストが500ページくらいあるのですが、その割には出題割合が少なく、単語も難しいですし、最後は割り切ってAランクの分野だけにしぼってそこだけを重点的にやりました。

AUDは3月くらいからDVDを見始めました。学習期間は一番少なかったです。みなさんおっしゃられるようにAUDはほかの3科目と違って、計算問題ではなくて文章を読んで考えるという問題なので最初は苦戦しました。DVDの講義を聞いているうちは分かるのですが、いざ実際に一人で解こうとBecker問題に取りかかると、何を聞かれているのかが最初は分かりませんでした。トリッキーな質問の仕方もありますので、それに慣れるのが大変でした。

TACの質問メールで解き方を問い合わせたところ、「間違えた問題の解答解説をよく読む」というアドバイスをいただきました。その方法通り、間違えた問題の解答解説を良く読むように心がけたところ、道がひらけました。暗記ではなく、なぜその解答が違うのかをきっちり理解するように意識すると、だんだんと問題が解けるようになります。結果的には一番高得点で合格することができました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

手続きに関してはTACの受講生サイトに詳しく書いてありましたので、その通りに進めて何も問題ありませんでした。ただ、学歴審査を早くやり過ぎてしまいアラスカ州のコーディネーターに書類が見当たらないと言われてしまったことがありました。初回受験の半年くらい前に依頼したことが災いしたのかもしれませんが、届いているはずなので探してもらうように何度か強く抗議をしたところ、それ以降はスムーズに進みました。何回か抗議をすることも必要かもしれません。その際も、お詫びのメール等は無く、「あなたのステータスは進みました」のような形で連絡が来ました。このあたりは、日本の感覚とはかなり違うと思います。

試験会場は少し寒いこともありましたが、1枚上着を持っていくと良いかもしれません。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

この資格は合格して終わりということではなく、私の場合、実務でも役に立っています。例えば、USCPAで勉強した時は管理会計の知識は少しあやふやな部分もあったのですが、今では予算を立てたりするときに非常に役に立っています。また、普段は監査を受ける方なのですが、Auditorの様々なリクエストも、AUDの勉強をしていたので、こういう意図があるんだなということでその内容を明確に理解できます。

U.S.CPA試験は、短期間で集中的に勉強をした方がスムーズにいく試験だと思いますので短期集中で頑張ってくださいと思います。

小泉先生がFARの講義で、おっしゃられていたことなのですが、勉強を始めて最初は伸びますが、その後停滞期がきます。そして停滞期を乗り越えると最後にまたぐっと伸びます。まさにそうだなと、この試験を通じて感じました。学習を進めて行けば、必ず停滞期が来ると思いますが、そこであきらめず勉強を続けてください。知識を蓄えないとその後の論点のつながりが見えてこないの、その時期を乗り越えて勉強を続けていただければ必ず合格できる試験だと思います。頑張ってください！



知識全体をメンテナンスし続ける仕組みづくりが重要

坂東 彰良 さん

1980年生まれ
早稲田大学 2004年卒
勤務先：信託銀行にて不動産業務に従事
不動産鑑定士

2012年8月 USCPA試験合格（メイン州）
FAR：81点（2012年5月／1回目）
BEC：80点（2012年8月／2回目）※1回目expire
REG：80点（2012年1月／3回目）
AUD：75点（2011年10月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

会計関係の知識を習得したいと思い、しかし単に書籍を読むだけでは知識を定着させることはできないと思い何かしらの資格合格を最初の目標に置きたいと考えました。この時に検討したのは簿記1級、税理士、(日本の)公認会計士、U.S.CPAでしたが、科目合格制であることと、英語習得にも役立つだろうという思いからU.S.CPAを選択しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記3級。また、不動産鑑定士二次試験で会計学を勉強（合格）しています。
英語知識：TOEIC®TEST 810点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

不動産鑑定士（二次試験）受験時にTACに通っており馴染みと信頼感があったことから、大きな注意がないことだけを確認したうえで、それ以上は深く検討することなくTACを選択しました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

この講座で提供される教材に、合格に必要な情報が確実に詰まっていると確信できるところ。未知の問題に試験会場で出会ったとしても、この問題は解けなくても否に影響はないと強気に鉛筆を転がして次の問題に進めました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信DVD講座で受講しました。空いた時間にノートPCを使って視聴するなど、隙間時間を活用していました。学習期間は、TACへの申込からは3年10ヶ月かかっています。ただ、講座申し込み後に仕事が忙しくなったなどの背景から勉強できず、本格的に始めた2010年1月からは2年8ヶ月でした。

- 2008年11月 TAC/Route99 2008年秋入学申込み
- 2010年01月 出願書類送付
- 2010年08月 BEC [83点] ○
- 2011年02月 REG [65点] ×
- 2011年05月 AUD [70点] ×
- 2011年08月 REG [69点] ×
- 2011年10月 AUD [75点] ○
- 2012年01月 REG [80点] ○
- 2012年05月 FAR [81点] ○
- 2012年08月 BEC [80点] ○

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

- 共通（基本パターン）①TACの講義（DVD）を通して視聴したのち、②復習としてテキストを一読したあとは、③ひたすらBeckerのMCを回しました。この際、必要に応じてTACのテキストとBeckerのテキストを参照し内容を確認・周辺事項を補足し、また苦手分野をまとめた暗記用のノート（A4の印刷用紙に書いてクリップでとめた）を作成しました。④MCを解く過程で出来る上がる暗記用のノートは通勤時に毎日見続けました。⑤MCの2周目が終わったあたりで、直前対策講義、Final Exam、AICPA Released Questionsに着手しました。この過程で発見した苦手部分も同様にノート化して、暗記ノートに随時追加、通勤時に毎日見直すルーチンに加えしました。⑥TBSはBecker COURSE DISCに入っている全問題を、MCの2周目終了時点あたりから解きました。3周を目標にしつつ、1.5周くらいで本番になってしまうというのが通例でした。TBSはMCの穴を見つける良いツールだと思いうので、もう少し早めに着手するようにしても良かったかなと反省しています。
- MCに関する詳細 MCを解く際に、正解には○を、不正解だったものには×マークをつけ、また正解したものの偶然っぽいものは△をつけ、△×は翌日以降も○になるまで繰り返し解き続けました。全問が一度正解に至った状態を一周と定義。×が10個並んで11回目ようやく○なんていう問題もたまにありました。

BeckerのMCの、各章のSupplemental Questionsを除いた全問（ベース部分）をこの定義で2周するとMCにおける合格ラインを越えて、Supplemental QuestionsやReleased Questions、Final Examなどを加えて更に1周（ベース部分3周、追加部分1周）まで持っていくとMCは余裕、そんな感覚を持っています。

なお、これらの結果として残る○・△・×の履歴を見ると超直前に解きなおすべき問題が一目瞭然になります。グアム行き飛行機の中では、最後の一回！と決めてこのような問題だけを選んで解きなおしていました。

効率策としては、1周目2周目ともに一発で正解している問題を更に解くメリットはほとんどないので、そのような問題は3周目ではパスとか、色々工夫の余地はあるでしょう。あるいは2周連続一発正解出来なかった問題周辺の論点だけノートに抽出して毎日読み返したり、暗記カードを作成するもの効果的だと思います。

知らない(解けない)範囲の論点をどうにかして洗い出して、そこに時間を集中投下するシステムを作るべきなのであって、周回数を重ねることそれ自体に意味はありません。理想論としては、既知の論点は最低限の記憶のメンテナンスにとどめるべきだと思います。（でも、現実的には今日の論点がOK

で、どの論点が穴かを完全に把握することはできないので、どうしても無駄な確認時間は発生してしまうわけですが。）

- 科目別
 - BEC (2回受験、2回とも合格) 初めて受験した科目であり、最後の科目でもありました。非常に有利な科目でした。経済学は、学部時代に勉強したので特段苦勞せず理解可能です。ファイナンスは、金融機関勤務であるために日常触れる概念も多いほか、証券アナリスト受験時に覚えたものも多く有利でした。しかしこのせいで初受験時に簡単に合格してしまい、「なーんだ、余裕じゃん」「MCを2回くらいずつ解けば受かるじゃん」などと勘違いし、その後の3連敗につながりました。そして3連敗しているうちに最初の合格をExpireし、結局WCの加わった面倒なBECを再び受験することになってしまいました。
 - REG (3回受験) 最も暗記量の多い科目だと思います。しかし、BECに合格した甘い気分のまま、「適当にMCを回せば受かるだろう」などと考えてしまい、精度の低いMC数周で受験し、2回散りました。これを反省し、特にTAXが、MCを回すだけでは必要事項が全く定着しなかったため、3回目の受験対策時には勉強の中心を暗記活動におきました。MCを解く過程で出来る上がる暗記ノートのほかに、教科書から重要暗記事項抜き出して暗記カードを自作し、これらを毎日暗記していました。この科目のみ、これらの暗記を通勤時間だけでなく業務後の図書館での勉強時間でも行いました。
 - AUD (2回受験) この科目も、BECに合格したゆるい気分でMCをダラダラ解く精度の低い勉強で受験し、見事に散りました。これを反省し、覚えるべきところは体系的に丸暗記してしまうべきであると認識を改め、特に各種監査報告書と各種サイクルは単にMCを解くだけでなく、別途まとめを作って気合を入れて暗記しました。
 - FAR (1回受験) NPA部分を、REGと同様に暗記カードなどを作って集中的に暗記に努めました。それ以外は、基本パターン通りに処理できた科目です。なお、NPAは（それほど多くはない）必要事項を覚えきくと安定的に得点できる部分なので、NPAを苦手にするとうつ体ないと思います。
- その他
 - 勉強時間 勉強時間は、平日で1～3時間/日、週末で5～8時間/日程度でした。
 - 勉強時間向上のために 自宅では全く勉強できない性格なので、出身校である早稲田大学の中央図書館を活用していました。ただ、夜22時には閉館になってしまうことなどから、勉強期間の後半は六本木ヒルズにある有料の図書館「六本木ライブラリー」にも通うようになりこれは投資金額に見合った素晴らしい成果に繋がりました。ただ、自宅から六本木が遠いため、例えば金曜日は業務後六本木ライブラリーで勉強し、その夜は六本木界隈に宿泊して、土曜日の7時（開館時間）に六本木ライブラリーに入るといったこともしていました（一人合宿と命名）。また、外部の目に晒してプレッシャーを受けるためにAndroidアプリの「学習時間の記録」を使って勉強時間を記録し、その記録をTwitterでつぶやき続けていました。
 - 暗記に関して (ちゃんと覚えることが重要です。) 一度3連敗し試験から撤退しようかとも思いましたが、勉強方法を変えてからは1度も落ちることなく4連勝で終わりました。この時に変えたのは暗記の精度です。3連敗中はMCを解いていけばそのうち覚えるだろうと考え、ひたすらMCをやるだけでした。この際、×の問題も○に至らしめることなくその周囲は終わりとばかりしてしまっていました。そうではなく、×は解けるまで何度でも、何日連続でも解き続けて正解しないと周囲を終わりと定義しないようにして（前述の定義）、またそのような問題関連の知識はノートや情報カードにまとめて毎日通勤時間に暗記のメンテナンスをすることにしました。この程度の勉強方法の調整で4連勝だったので、落ちたのは教材の情報量のせいではなく、その情報の処理（暗記）の仕方が不十分だったからと理解しています。
 - ゴロ合わせ 語呂の良さなど完全無視して力技で、結構長めでも問答無用でキーワードを暗記してしまうケースが多くありました。政府会計のGovernmental Funds5つの暗記は「ジェネスペットキャッピーパーマ」でした。個人的な経験ベースでは毎日50くらい3日連続くらいで唱えていると、たいたい記憶に刻まれるようです。TAC（というかBecker）推奨は「GRaSP（グラス）」のようですが、Pが2つあるのでグラスを覚えても、それぞれのPを覚えるのに結構負担がかかるのでイヤでした。（さらにFiduciary FundsにもPが2つあって、合計4つをゴロとは別次元で区別することになります。）

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

- 試験範囲、制度がよく変わる 1回目の合格時のBECにWCはなくMCのみでしたが、2回目の受験時にはWCが加わっていました。また、BEC合格後に試験範囲が変更になり、BECでやったBLの範囲を、REGで再び受験するという幸運がありました。しかし、何よりも大問題だったのは2科目合格時点でメイン州の学歴要件が厳しくなったことです（単位要件が追加された）。結局、移行措置に救済されましたが、条件次第では受験をあきらめる可能性すらある局面でした。なお、こういった場合の連絡は他予備校と比べてTACが圧倒的に早かったと思います。
- 弾丸ツアー 水曜日に有給休暇を1日取得するのみでグアムを往復が可能でした。火曜日の業務後に成田に直行、水曜日の午前受験し、同日午後の便で帰国、水曜日には出社していました。（今後はグアム渡航する方は少なくなるのでしうけど。）

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

8回受験した感想として、U.S.CPAは良くできた非常に信頼性の高い試験だと感じています。偶然受かったらということもなければ、受かってしかるべき人が事故で落ちてしまうことも少ない良い試験。そして、BeckerのMCを高精度で仕上げることを中心軸におけば、大きな間違いは起こらないと思います。以上



「なぜ USCPA を目指すのか？」 初心を決して忘れずに。

天野 晃 さん

1983年生まれ
勤務先：日系PE投資会社

2012年8月 USCPA試験合格（メイン州）
FAR：87点（2011年8月／1回目）、BEC：80点（2011年11月／2回目）
REG：88点（2012年5月／1回目）、AUD：90点（2012年8月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

約3年前、当時はM&Aのアドバイザー業務に従事していましたが、ある米国企業のデューデリジェンスに携わる機会があり、そこで初めて英文の財務諸表に触れたのがUSCPAを目指すきっかけです。もともと財務や会計に興味があり、日常業務でも財務分析などを行う機会も多かったため、財務・会計スキルにはある程度の自信を持っていましたが、いざ英文の財務諸表を前にすると初歩的なことですら分からない現実を突きつけられ、情けない思いをしました。そこで、「きっちりと体系的に英文会計を学びたい」、「どうせ勉強するのなら、その努力が形に残るものが良い」と考え、USCPAにチャレンジすることにしました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級。日常業務で、財務諸表に触れる機会が多かったです。
英語知識：TOEIC500点 → USCPA勉強中に735点にUP

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

TAC以外に、大手予備校2校の説明会や模擬講義に出席し、比較検討しました。その上で、主に下記3点を考慮して最終的にTACを選択しました。

- ・日本語テキストで「理解」を重視したカリキュラムであり、英文会計初学者の自分としては、この方法が一番合っていると思った。
- ・講義時間当たりの単価が最もリーズナブルであった。
- ・大手総合資格学校としての実績や安心感。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師の皆さんの質、講義のボリューム、日本語でのオリジナル教材など、USCPA初学者の自分にとっては、全体的に適切な内容だったと思います。特に、Beckerは本場アメリカの多くの受験生に支持され、かつ高い実績を出している問題集です。「難問奇問ではなく、基本的な問題をいかに確実に得点するか」が合否を分ける試験の性質上、「Beckerでは見かけなかった問題は、他の多くの受験生も分からないはずだ」と思うことができる安心感は、大きなアドバンテージだと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

会社帰りに校舎で講義を視聴できる通学ビデオ（DVD）講座で学習しました。校舎に通学することで、勉強のリズムを保ちながら学習することができたと思います。学習期間は、初回講義から全科目合格まで1年11ヶ月でした。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

合格までの前半はFARとBECを、後半はREGとAUDを並行して学習しました。

■全体的な学習方法

4科目とも、まずは下記のフローで学習を行いました。

- ① 講義受講
- ② テキスト付属問題集を2周
- ③ Becker問題集を2周～3週：累計正答率90%超を目指す
- ④ AICPAリリース問題を2周
- ⑤ 直前対策講義

■問題の解き方

テキスト付属問題集、Becker問題集、AICPAリリース問題に共通しますが、まず1週目にすべての問題を解き、答え合わせの際に、解答別に下記のように分類しました。

- ：次回も確実に得点できる
- △：解答に自信が無い（正答、不正答に関わらず）
- ×：不正答 2回目以降は、上記の△と×を中心に解くことで、苦手分野を重点的に対策しました。

■AUDについて

AUDについては、事前の情報収集で日本人受験生が一番苦労する科目であることは明らかだったので、最も多くの時間を配分し対策しました。しかし、1回目で合格することはできませんでした。この要因としては、①問題は多く解いたものの、学習以前に監査についての知識や経験がなかったこともあり、根本的な理解が出来ていなかった。②設問や選択肢を正確に把握する英語力が不足していた。と分析しました。そこで、音声フォローで講義を再受講し、ノートにまとめることで内容の理解に努めるとともに、テキスト内で重要だと思われる事項は、自分なりの二モニックを作成するなどして、徹底的に暗記を行うことで合格することができました。AUDが最後の科目という受験生も多いと思いますが、他の科目で通用したやり方（私の場合は、とにかくBeckerを回す学習方法）が、AUDでは必ずしも通用しないところに注意が必要です。AUD特有の考え方を理解し、そして必要な事項は愚直に「暗記」することが非常に重要な科目であると思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続は、TAC受講生サイトで常に最新のものがアップデートされていることもあり、特に大きな問題は生じませんでした。受験時にも特に大きなトラブルはありませんでした。ただ注意点としては、私は海外ではハワイとグアムのテストセンターで受験しましたが、両方とも冷房が利きすぎていると感じましたので、特に海外で受験される方は、1枚上着を持ち込むことをお勧めします。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

仕事を続けながら受験されている方々も多いと思いますが、繁忙期に入ったり、突発的な業務が発生したりと、なかなか決まった勉強時間を確保できず、フラストレーションが溜まることも多いと思います。そのような時こそ、「なぜ自分がUSCPAを目指そうと思ったのか」という初心に立ち返り、モチベーションを維持することが大切だと思います。努力は必ず報われます。自分を信じて、合格まで突き進んで下さい。



TACで勉強すれば合格できます！！

吉田 映美 さん

1978年生まれ
早稲田大学 法学部卒
勤務先：外資系法律事務所

2012年8月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：83点（2012年2月／1回目）、BEC：79点（2012年8月／1回目）
REG：87点（2012年8月／1回目）、AUD：96点（2012年5月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

外資系の会社で仕事をしているので、英語系の資格を取りたいと思っていました。翻訳や通訳、英会話も見たのですが語学だけだとキャリアアップにはなりにくく感じました。MBA、LLMも検討しましたが、英語＋αと考えればUSCPAが一番、金額的にも時間的にも考えやすかったため、USCPAにチャレンジすることを決めました。

USCPAの存在は他校の広告で知りましたが、調べるとTACもUSCPA講座をやっていることを知り、講座説明会等を比べてTACの方が資格取得に専念していると感じたのでTACに決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：BATIC Accountant Level、簿記2級
英語知識：TOEIC®TEST 960点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

競合と比べた場合、TACは宣伝等は少ないが、その分、教材開発や講師の質に力を入れていると感じたため。実際に受講してもそう感じました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師：選ばれている方が講義をされていると感じました。個性が強く、バラエティーに富んだ先生の講義は毎週楽しみでした。

教材：まとめプリントは本当に素晴らしかったです。一通り勉強した後に確認すると、このくらいの勉強量で本当に合格できるんだと実感できました。試験前に確認するだけで良かったので非常に助かりました。

カリキュラム：フリーパス制度を使用し、土日共に講義に出て、インプットは半年で終わらせました。講義の進度も調度よく、違和感なく通うことができました。

その他は音声DLが重宝しました。DVDをチェックするまでもないところでも、音声なら気軽に確認ができるので非常に役に立ちました。ポータブルプレーヤーで倍速で聞いて勉強しました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学DVDで申込み、フリーパス制度を利用し、実際は教室でインプット講義を受けました。合格までの学習期間は約1年間です。11年春夏入学の講義を土日で受講しインプット期間を圧縮。その後、半年間はアウトプットに充てました。

平日は仕事でまとまった時間があまり取れなかったため、通勤や休み時間を利用して講義を聞いたり、暗記をしたり、プリント類を確認したりしていました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全般的には、各科目 ①講義を聞く→②Beckerを解く→③分からない所はテキストや音声講義を聞く→④Beckerを解くを繰り返しました。Beckerは問題を見てわからないものは、考えたりせず、回

答をすぐ読みました。キーワードやわからなかったところは、目立つように、蛍光ペンで大きくマークをし、通勤や細切れ時間はこの部分を覚えるのに使いました。

Beckerは簡単に解けた問題は1回、解けなかった問題は2～3回転しました。科目の順番はFAR→AUD→BEC・REGの順番で学習をしました。

AUDは帆足先生のパワーポイントの資料がカード式に切れるようになっているので、それをリングにつけて勉強しました。AUDが一番得点が高かったのですが、特別なことをしたわけではなく、帆足先生の講義が素晴らしかったと言われた通りに勉強をしたら高得点を取れました。AUDはストーリー形式で頭に入ってくるので、FARやBECのように公式が分かっても流れで答えを選ぶのでFARと並行して勉強がしやすかったです。

REGはまとめ教材が良くまとまっていたし、講義も様々な例えをまぜてお話して下さるので非常に面白かったです。あえて辛口に言わせていただければ、大枠を掴みたい場合は内容が細かったため、もう少し全体像が分かる資料が学習の初期に欲しかったです。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

FACSへの学歴審査が3ヶ月もかかってしまいました。ブラッドリー大学の単位取得やNASBAからの受験票の送付等は特に問題なくスムーズに進みました。受験は最初は海外で受験をしようと考えていましたが、周りの人から「何回も受験をするので海外よりも日本の方がコンディションを整えやすい試験に集中できるので良いよ」というアドバイスを聞くうちに、日本で受験をすることにしました。実際に茅場町で受験をしましたが、やはり日本受験はプロメトリックセンターの担当者も日本語が通じますし、受験しやすいと感じました。実際の受験ですが、私の場合は問題文の短いものが、予想より多かったため解答を一通り終えた後、再度一周見直す時間がありました。出題が偏ることもあるなど、どこが出るか分からないので、ごっそり落とさないために、まんべんなく勉強が必要だと思います。

BECのWCは、Tony先生のおっしゃるとおり、考えを短くまとめ、シンプルな構成で説明することが大切だと思います。日本では英語圏ほどなじみがない習慣のため、英語力以前にそこですまず可能性があると感じました。日本語の文章と同じ文章を翻訳して書こうとするのは、時間内では厳しいと思います。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

TACで勉強をすれば合格できます！ 学習をしている間は、この程度の学習量で本当に合格できるのか不安だったため、合格した感想は、良い意味で予想外でした。TACの講師は質が高く、教材も良く練られていますので、TACを信じて余計なことは考えずに頑張ってください。

こんなに身近に国際的な資格を取れることはないと思うので、もう少しキャリアアップをしたいと考えている方には一番取りやすい資格なのではないかと思います。仕事をしながらも学習ができる点や費用面でもMBAやLLMと比べて非常に魅力的だと思います。ぜひ皆さんも合格を目指してがんばってください。



正直の頭に新宿る

K.Y さん

1970年生まれ

勤務先：金融会社

2012年8月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：79点（2012年5月／3回目）、BEC：76点（2012年8月／4回目）

REG：78点（2012年2月／1回目）、AUD：75点（2012年8月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

グローバルに自分の能力を試す為には、ルールを知ることが必要だと思いました。私はグローバル企業のマネジメントをやりたい、そして自分でアメリカに投資会社を興したいという計画がありましたので、U.S.CPAで得られる知識が私のビジネス上必要な資格と思い、チャレンジしようと決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力の指標となるものはありませんが、英語に対して特に臆することはない程度です。会計知識は日商簿記2級です。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

TACで日商簿記や宅地建物取引主任者の資格取得でお世話になったこともあり、U.S.CPAでも迷うことなく、お世話になりました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師の先生方が親身にご指導していただいたことが一番良かったと思います。TACのテキスト、問題集がBeckerとリンクしているので、TACのテキスト、問題集、Beckerの演習を何度も繰り返していけば、合格できると信じることができました。今では、ボールペンのマークで重要な論点をぐるぐる巻きにしたTACのテキストが、講師の先生方の特徴的なフレーズと共に、宝物になりました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学です。学習期間は1年と8ヶ月です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

とにかく、TACのテキスト、問題集を何度も繰り返し理解し、演習した後は、Beckerの演習で、何度もトレーニングを行ないました。Beckerのトレーニングが90%以上の正答率になると、実際に本試験で合格できることが、体感でき、他科目においても、間違った問題をマークして、その問題を潰していくことに専念しました。苦手な問題を克服することが、楽しく感じられるようになりました。平行して総まとめ演習も何度も繰り返しました。特に総まとめに掲載されているSIMの例題は、覚えてしまう程、繰り返しました。そうすると、本試験では殆ど同じ問題が出てきたり、聞いてくる論

点を読めるので、どのような問題にも物怖じせず、対処することが出来ました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

何度も受験しているにも関わらず、ある日東京会場にconfirmation mailをNTSと勘違いして、持って行ってしまい、茅場町から自宅まで、タクシーで首都高を突っ走り、往復してしまいました。しかも、NTSの番号を控えていたのですが、番号が一桁抜けていました。会場でエントリーしても、試験が開始せず、その日の受験を断念せざるを得ない状況になり、むなしく帰ろうと茅場町改札まで行った時、並んでいた同じ数字が一桁抜けていたことに気付き、再度会場に戻り、エントリーすると、試験が出来ました。絶対に会場には「NTSとパスポートは忘れないということ、最後まで諦めない！」ということが大切だと改めて感じました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

信念と覚悟を持って臨めば、必ず合格する試験だと体感しています。愚直にUS.CPAに対して、敬意と熱意を持って努力を怠らなければ、必ず応えてくれる資格です。苦しい時は、この資格で、挑戦できる夢を思い描いて、乗り切ることができました。新たな人生のスタートラインに立てると思えば、腰を据えて、自分の体の一部になるまでやってやろうと思えば、努力は必ず報われ、新しい道は拓かれます。

「1年で決める！」短期合格を目指して・・・



Y.W さん

京都大学 2002年卒
勤務先：米系コンサルティング会社

2012年8月 USCPA試験合格（メイン州）
FAR：89点（2012年1月／1回目）、BEC：90点（2012年1月／1回目）
REG：90点（2012年5月／1回目）、AUD：88点（2012年8月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

2011年3月の震災以降、日本の顧客に対して日本人チームだけで仕事をする機会がめっきりと減り、日本人スタッフが海外で仕事をする、あるいは日本での仕事を海外スタッフと一緒に遂行するような機会が目立つようになっていました。そんな折、米国オフィスのCPAチームと一緒に、ある企業の財務報告に関わる調査案件を担当することがあり、その領域に関わる体系的な知識を得たいと思ったのがきっかけです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

留学経験は無くTOEIC950程度。会計は学生の頃に簿記3～2級の内容を独学した程度です。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

職場の近くにあったので話を聞きに行き、特に他校と比較検討することもなく決めました。今にして思うと、総費用を決める最大のファクターは受験回数（学習期間長期化に伴う機会費用を含む）なので、費用対効果をあれこれ分析して学校選びをするよりも、さっさと始めてさっさと受かることに力を使うのはそれでよかったのかな、と思います。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

必要にして十分な内容が日本語のテキストにコンパクトにまとまっているところ、熱意ある個性的な先生が揃っているところ、そして、自習室環境や各種サポートが充実しているところだと思います。時々クラスの交流会が開催されたりして、同じ勉強をしている仲間に元気づけられたのも大きかったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信DVD講座に申し込みましたが、出られるだけ教室講義に出ていました。2011年7月に始めて、14カ月で全科目合格。初学者レベルからフルタイムで仕事をしながらでは、ほぼ最速のスケジュールではないかと思っています。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

■時間の使い方

最初から、1年で合格しようと思って始めました。1年間=52週×7日×24時間=8,736時間。うち、1日6時間は寝る時間、平日の1日12時間は仕事の時間とすると、残り3,432時間が使えるリソースになります。必要な勉強量が1,000時間程度と言われているので、あとあらゆる隙間時間の3分の1を投入すればOKかな、という目論見でした。

■学習法

講義だけは2回、そのほかのTAC問題集、Becker CD-ROM、総まとめ講義、AICPAリリース問題、Final Examはすべて1回ずつ、が基本パターンでした。なぜかUSCPA受験生の間では、問題集を何回転したかがKPI（業績指標）になっているようですが、個人的には、そのこと自体にあまり意味はないと思います。

インプットのDVDを見る時も早回しして消化を目的とするようなことはせず、できるだけその場その場で理解するようにしました。春クラスと夏クラスは同じテキストを使い、3カ月差で開講されていたので、春クラスのタイミングで予習し、夏クラスのタイミングで復習できるようペースメーカーにしていました。

問題集は何回も繰り返し解くことができなかった代わりに、問題を解く都度、その問題のアイデンティティを理解するよう努めていました。回答解説を頭の中で描きながら解き、間違えた問題は何をどう間違えたのか書き残しておくことにしました。（見返してみると、「JuneとJulyを勘違い」「Notを見落とした」「リースの1回目の支払・・・」といった残念な間違い記録がたくさん残っています・・・）

短期間で正答率を改善するために、間違え方のパターン分類しておくのは重要だと思います。論点を理解していればどうっか間違えたのか、そもそも理解していなかったのかでその後の対策が異なります。中でも、英単語を知らなくて間違えた問題は、それ専用の色でマーカーを引き、あとでサッと見直せるようにしていました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

USCPA試験は、ルールに従った通常の手続きでも問い合わせが必要となる場面が多いのに加え、ルールそのものが変更されることも頻繁にあります。従来メイン州は会計単位が不要で多くの日本人が受験していましたが、途中で会計単位が必要な形に変更されてしまいました。一方で、途中から日本受験が可能になるという変更もありました。ルール変更の際には様々な噂が飛び交い、変更内容の確報が出るまで時間がかかることがあるので、確報を待つよりも、敢えて手続を進めてしまう、という手もあるのかと思います。

各種手続きは、面倒だからといって先送りすると、心理的な重たさが雪だるま式に増加します。いざ取りかかってみると、本体の勉強とは違って頭を使わないでサクサク進められるものですし、目に見えて進捗が実感できるので、気分転換やモチベーションアップにもなります。また、手続を進めておくことは、試験制度変更リスクへのエクスポージャーを減らすことにもなります。

手続は、そもそもトラブル無くスムーズに行くべきと思うのではなく、何かある方が当然だと思っておくのが良いのかもかもしれません。私はむしろ、Written Communicationの練習の機会が得られてラッキー?! くらいに思って問い合わせのメールを出していました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

言い尽くされていることですが、この試験は1つ1つの論点を深めることよりも、抜け漏れが無いことが重要です。苦手意識を持っているところの対策をするだけでなく、自分では気づいていない未カバー範囲が無いように、慎重にチェックしておく必要があります。未カバー範囲を発見するのに役立つのが、テキストの目次の研究です。TACのテキストとBeckerのテキストの目次を見比べながら、論点の意味合いや繋がりを考え、全体像を自分なりに構造化しておくの良いと思います。（草野先生がおっしゃっている「本棚を作る」ってたぶんそういうことなのかな、と思います。）

特に、復習をする際には、似ている論点のページを行ったり来たりしながら、「もし自分がこのテキストを作る人だったなら、あの論点はこの論点とのつながりでこの章に入れるかなあ」といったことを考えるようにしていました。講義も受動的に聞くのではなく、能動的に考えながら聞くことで、いろんな論点が網目のようにつながって、本番でも真っ白にならない強い知識になると思います。

これまで、海外のメンバーと一緒に仕事をするとき、言語としての英語だけで戦おうとすると、どうしてもネイティブの壁に限界を感じざるを得ませんでした。勉強が進む中で、ビジネスにおける数字感覚や会計的な概念を踏まえて話をすると、びっくりするくらいコミュニケーションが楽になることを体験しました。会計監査業務に従事しなくても、使い様によっては、苦労に見合うだけの価値のある資格だと思います。合格してからも修行は続きますが、頑張っていきましょう！



BECKERの直前対策が秀逸でした。

M.I さん

1972年生まれ

勤務先：総合商社

2012年8月 USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：79点（2011年2月／1回目）
BEC：76点（2012年8月／2回目）1回目 expire
REG：85点（2012年7月／4回目）
AUD：81点（2011年11月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

- ・現在、商社で海外事業投資関連の業務に従事しており、いずれCFOとして現地に赴任する可能性が高い為、英文での財務・会計の知識が不可欠と感じた事。
- ・財務会計、管理会計、IFRS、ファイナンス、商法、税務、IT、監査、内部統制等、広範な分野をカバーしており、ビジネスに必要な共通言語を幅広く身に着けるのに最適と思った事。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記二級

英語知識：TOEIC®TEST 800点台

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

洋書や他校教材で勉強していましたが、どうしても合格できない科目（REG）があったのと、その合格できない科目の為にエクスパイアした科目（BEC）があり、これを短期間で仕上げる必要がありました。その為各校の直前講座を検討し教材サンプルを閲覧させて頂いた所、科目の総まとめ、MC、TBSを全てバランスよく網羅していたのは唯一TACの直前講座だけだったので受講を決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

REGの総まとめ授業が目からウロコでした。あやふやで断片的であった知識を体系的に整理する事ができました。鬼門になっていたREGを最後に85点で合格できたのは貴校講座で殻を破ったからに他なりません。

BECの特に管理会計では、他のどの教材でも解らなかつた箇所を貴校講座で極めてシンプルに、すっきり理解する事ができました。USCPA講座だけではない長年の会計教育のノウハウを持っているTACの強みだと感じました。また重要事項には日本語と英語が必ず併記されていたので日英両方で定義をインプットする事ができ、これがwritten communicationに役に立ちました。

BECはエクスパイアによる再受験でしたが、新試験になって以降難易度が上がっているBECをわずか一月足らずの準備期間で取り戻せたのは貴校の直前対策のお蔭です。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

週末にDVDの1.5倍速で授業を聞き、その週の平日に丹念に復習しました。最後にもう一度DVDを二倍速で聞くとさらに理解が深まりました。インプットの記憶が鮮明な最初の復習を丹念にやれば、それ以降はさほど何回転もする必要がなくなりますので勉強が楽になります。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

手ごたえと結果が一致する事は最後までありませんでした。またテストレットの難易度変化が感じられず出来が悪いのか？と思っていても合格していた事もありました。最後まであきらめず、一喜一憂しない事が大切です。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPAは範囲が膨大な試験です。全科目順調に合格する方もいらっしゃるかもしれませんが大抵の人は苦手科目や分野がどうしても出てきてしまいます。その苦手科目に合格できずエクスパイアになり、モチベーションを失ってしまう人が多いのも事実です。そういう方にはTAC生、他校生に関係なく直前対策の受講をお勧めします。特に定評あるBACKERに触れられるのは日本ではTACだけです。それだけでも価値があります。

効率的に勉強して、短期間で合格しましょう！



N.U さん

1979年生まれ
明治大学 理工学部 2002年3月卒業
勤務先：製造業（経理部）

2012年8月 USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：93点（2011年11月／1回目）、BEC：75点（2012年2月／1回目）
REG：88点（2012年5月／1回目）、AUD：76点（2012年8月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

日系のベンチャー企業にて経理・財務業務に従事しておりますが、いざ転職しなければならなくなった場合の武器となる資格が欲しいと考えたためです。日本の公認会計士や税理士も考えたのですが、U.S.CPAは合格率が40～50%と比較的合格しやすく、かつ、会計・税務・法務といった専門知識と英語力を客観的に証明できて転職時に高い評価を得られるものと考え、U.S.CPAを選択しました。

また、2011年8月より日本でU.S.CPA試験を受験できるようになったことも、受験を決めた大きなきっかけです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力は、TOEIC 300点・英検4級と、受験生の中では平均よりも低い方かと思えます。
会計知識は、日商簿記1級合格、BATIC（国際会計検定）932点です。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

米国で最も合格率の高いBecker教材が使える点と、Becker教材をベースに日本語のテキストと問題集が編集されている点でTACを選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

全科目ともにTAC&Beckerの教材が素晴らしく、基本的にはそれだけで合格できると感じました。

また、5年間継続再受講制度があり、これがなかったら私はU.S.CPA試験に合格できませんでした。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

土日は仕事か家族サービスで学校に行くことができなかったため、通信を選択しました。

学習期間は、2011年8月から学習をスタートし、2012年8月に全科目合格となったため、丸1年です。

夫婦共働きにより家事・育児にも参加する必要があったことから、1日の学習時間は土日も合わせて平均2時間程度で、トータル学習時間は550時間程度でした。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

【全般】

6年前にU.S.CPA本科生コースで申し込んだものの、仕事やプライベートで多忙になり、すぐに挫折してしまいました。

しかし、日本受験ができるようになったのをきっかけに、5年間再受講制度を利用して通信講座を申し込み、学習を再開しました。

まず、準備段階として2011年7月よりBATICの学習をスタートし、BATIC受験後、8月より本格的にU.S.CPA試験の勉強をスタートしました。

私の場合、通信ということもあり自分のペースで学習を進められることから、3ヶ月で1科目ずつ受験し（複数科目受験はしない）、その3ヶ月の間は1科目だけに集中して講義受講・問題演習し、他の科目には一切手をつけず、というスタイルを取っていました。

▼インプット（講義受講&テキスト理解）

インプットよりもアウトプットに時間を費やす作戦を立て、インプットの時間をいかに最小限にとどめるかを考えました。

具体的には、まずテキスト全体をサラッと読んでみて、読むだけで理解できそうな部分は思い切って授業を聴かないこととしました。また、授業を受けると決めたものは、2倍速で聴き、2回目を聴くのを禁止にしました。（初めから2回聴くと決めてしまうと油断が生まれますので）

授業は全部で100コマ近くあり、これを全部受講すると合計で300時間（100コマ×3時間）も必要になりますが、それだけの時間を確保するのは困難であったことから、実際に受講したのは全体の3分の1程度にとどめました。このような作戦が可能であったのは、TACのテキストが非常に分かりやすく、例題が豊富でイメージしやすかったからだと思います。

▼アウトプット（問題演習）

英語にハンデがあったため、問題演習の量と回数をこなすことを心がけました。

まず、各科目ともTACの問題集とAICPAリリース問題を2～4回解きました。ブラして、FARとBECはBeckerのPassMaster（Multiple Choice対策の問題集）とSimulations（Simulation対策の問題集）を解きました。

そして、試験2週間前あたりから、Becker Final Exam（模擬試験）をテストシート毎に細切れにして解きました。

なお、問題演習に際して最も注意していたことは、問題文を読んで正解の選択肢を見つけ、答えが合っているかを確認して終わりにするのではなく、間違っている選択肢についても「どこが間違っているのか？」を考えながら問題を解き、その後、解説文もしっかり読むことです。これは時間もパワーも使いますが、アウトプット重視の学習では絶対に必要なことだと思います。

【科目別】

▼FAR

事前にBATICの勉強をしていたので、問題演習にほとんどの時間を費やしました。

初めての受験科目ということもあって、どれぐらいの勉強量で合格できるか要領が掴めていなかったため、Becker PassMasterのSupplemental Questionsも含めて3～4回転ぐくらいでしたが、そのせいもあってが高得点（93点）で合格できました。

FARは4科目の中で最も計算問題が多いことが特徴で、計算問題については繰り返しアウトプットの訓練をすれば得点が伸びますので、努力と結果が最も一致する科目です。

逆に、問題演習が不足していると、試験本番では時間が足りなく感じてしまい、精神的に焦ってしまうのではないかと思います。

▼BEC

FARと同様、Becker PassMasterのSupplemental Questionsも含めた全ての問題を3～4回解きましたが、BECは新試験になってから周囲の受験生がとても苦戦していることから、苦手なITとコーポレートガバナンスの分野に限って他の洋書問題集も購入して解きました。

BECは唯一Written Communicationが出題される科目ですが、私の英語力では英文を書ける自信がなかったことから、この対策は一切やらず、Multiple Choiceで満点近くとることを目指していました。

BECは4科目の中で最も勉強時間を費やし、Multiple Choiceに関しては完璧な仕上がりの状態で試験に臨んだにも関わらず、試験本番ではかなり難しい問題が出題されて顔が青ざめました。75点ギリギリでの合格でした。

周囲を見てもBECに一人で合格できる方は少なく、かつ、合格者でも75点をちょっと超えるぐらいのギリギリの点数で合格される方が多いことから、現在の試験制度において、4科目の中でBECが最も合格するのに難しい科目だと感じています。

▼REG

前評判通り、内田先生の税法の授業と教材は素晴らしく、内田先生の言う通りに勉強をすることで高得点が取れました。

具体的には、TACの厳選問題集480問を繰り返し解きながら、直前対策まとめノートを繰り返し何度も読み、税法独特（特にBasis）の考え方や暗記すべき重要数値を頭に叩き込みました。

厳選問題集480問を解けば、Becker PassMasterは9割以上取れるため、Becker PassMasterに手を付ける必要はないかと思います。

Simulation対策もTACの問題集を2～3回解きました。

一方、ビジネスローは学習範囲の広い割には試験での出題割合が低いため、ビジネスローをどれだけ効率良く勉強する（出題頻度の少ない論点は思い切って切り捨てる）ことがREGを効率的に合格するポイントだと思います。私は税法に時間を割き過ぎてしまい、ビジネスローには時間をまわせなかったため、ビジネスローに関してはAICPA最新リリース問題で出題されていた論点に絞って勉強しました。

▼AUD

試験まで1.5ヶ月（75時間程度）しか勉強できなかったため、TACのテキストを繰り返し読み、TACの問題集、AICPAリリース問題（2006～2012年）及びSimulation対策&総まとめテキストを繰り返し解くことに専念しました。

AUDは各論点をバラバラに理解するのではなく、各論点を関連付けながら覚えることが重要であるため、私の勉強スタイルとしては、問題を解いてはテキストを読み、問題集の余白部分に、関連する論点を書き込んでいきました。即ち、監査の知識を（日本語で）深く理解するといった、インプット重視の方法を採用しました。

なお、AUDでは計算問題がほとんど出題されず、ひたすら英語を読み続ける必要があるため、英語が苦手な私には、試験勉強中も試験本番も地獄のような苦しみでした。英語が苦手な私でも短期間かつ初回で合格できた要因は、他の科目の勉強で既に英語に対する忍耐力が身に付いていたからであり、受験科目の順番としてAUDを最後に回したのは正解でした。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

私は東京都内に住んでおりますので、4科目すべて、東京（茅場町）のプロメトリックセンターで受験しましたが、海外受験と異なり、慣れた環境で受験だけに集中できますので、高い受験料を払ってでも、日本で受験して良かったと思います。

最後のAUDを受験した日は、「午前中仕事→午後からAUDの試験→夕方からまた仕事」といった強行スケジュールでしたが、このように仕事に支障をきたさずに試験を受けることができるのも日本受験ならではの良さだと思います。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPA試験本番に向けて独りで黙々と問題を解いていると「果たして自分は合格できるのだろうか？」と不安になるかと思います。通信受講である私は常に不安でした。

しかし、U.S.CPA試験は合格率40～50%の試験。明らかに勉強不足である人も受験して居ますので、上位半分の中に入れば確実に合格できるのです。しっかり勉強すれば必ず合格できます。

一方で、受験者の90%がアメリカ人で、しかもそれなりに有名な大学・大学院生およびその卒業生です。合格率だけで「楽に合格できるだろう」と油断してしまうのは非常に危険です。楽観的になりすぎず悲観的になりすぎず、合格を信じてひたすら勉強に打ち込んで欲しいと思います。

最後に、U.S.CPA試験に合格するために最も大事なポイントは「短期間で合格する」ことだと思います。というのも、科目合格の有効期限が18ヶ月しかないの、のんびり受験勉強をしていると、あっという間に科目合格の期限が切れてしまい、合格までの苦労が水の泡となってしまいます。受験勉強をスタートしたからには、できる限り勉強時間を確保し、効率的に勉強して、モチベーションの高いうちに合格してしまいましょう！！



自分自身を超えましょう！

波多野 正樹 さん

1986年生まれ
立教大学 2009年卒業

2012年8月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：76点（2012年2月／1回目）、BEC：75点（2012年5月／2回目）
REG：85点（2012年8月／1回目）、AUD：85点（2012年5月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

以前、計数に関する仕事に就いていたのですが、財務会計の知識なしに掘り下げていくことに限界を感じており、もっと事業を多角的に見る為にも会計の総合的な勉強をしようと思ったのがきっかけです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級程度
英語知識：TOEIC®TEST 550（合格前）→ 775（合格後）

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

- ①一番評判の良い教材（BECKER）を使いたかった
- ②フォローアップが手厚い

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師陣の教え方の上手さ・熱心さ、BECKER教材のクオリティー、各種フォローアップ制度、どれもとても素晴らしかったと思います。特に出題内容の変更や追加が多いUSCPA試験において情報のアップデート等を完全にサポートして頂いたので大変助かりました。内田先生の「直対まとめ」もTACならではのプレミアムな部分なのではないかと思っています。FAR：草野先生、小泉先生、平石先生 BEC：阿辺先生 REG：内田先生、杉浦先生 AUD：田中先生にはこの場を借りて心より御礼を申し上げたいと思います。本当に有難う御座いました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

学習期間はちょうど1年です。
4ヶ月は教室講義、退職した関係で後の8ヶ月間はDVD通信で受講しました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

- ◆全体概要
細かい部分を除き、全科目下記のフローです。
- ①講義を通して聞く
- ②TACの問題集を自力で解く（時間がない時は省略）
- ③BECKER紙ベースの問題集にあらかじめ全問丸付けをしてしまう
- ④BECKERの解答解説を読みながら、どういう問われ方をして、なぜその答えなのか理解しポイントを書き込む
- ⑤BECKERをひたすら目視で回転させる
BECKERはとにかく問題数が多く、自力で問題を解いていくよりも、解答プロセスそのものを暗記してしまう方が自分は得意だったのでこの方法を取りました。
- ◆科目別
- ①FAR
学習についてはまさしく簿記1級を英語で学習すると言った感じです。自分は2級までの知識しかなかったので初学の部分が多く、理解が浅いところは簿記1級の日本語参考書を読むなどして対応していました。本番についてはとにかくPCでのMCの答練を行うことが大事だ

と思われま。FARは4科目の中で一番時間がタイトなので機械的に計算が解けるようにしておく必要があります。

REGのform以外のSIMは全科目基本MCの延長線なのでとにかくMCをやり込むことをお勧めします。

②BEC
ある種一番苦労した科目でした。この科目は他の科目に比べると、範囲が不明確でテスト毎に違ったトレンドの問題が出題される可能性があります。運の部分も多分にあります。穴を作らず、とにかく浅く広く要点を押さえておくのをお勧め致します。特にECO、ITは教科書に載っていないような問題が出題されてくる可能性があるため注意が必要です。阿辺先生に教えて頂いた方法ですが、BECKER教材の巻末に載っているGLOSSARYで知らない用語を軽く読んでおくのも良いかもしれません。

WCについては最低限始まりと結びの句ぐらいは押さえ、出題しやすそうなトピックについてはあらかじめ狙いをつけて書き出してしまおうのが対策としては良いかと思ひます。

③REG
一番ボリュームが多いと感じた科目でした。ポイントとしてはTAXは細かい部分まで押さえること・BASISの計算答練、BLは杉浦先生が講義中におっしゃったAランク論点のみを注視し、他は軽く流す程度にする、ということだと思います。TAXはかなり細かい部分まで問われる印象ですがBLは正直あまり細かい部分は聞いてきません。ですので上手いことメリハリをつけて学習するのがこの合格の秘訣だと思います。

④AUD
抽象的で難しい科目であるとよく耳にしましたが、決してそんなことはないと思います。自分としてはAUDが一番の暗記科目であると思います。ポイントは大きく分けて2つ、1つは監査の最初から最後までフローを体系的に整理ししっかり理解すること。もう1つは単語を暗記するというよりも、ケースを暗記するイメージで細部まで暗記することです。

Auditや各Attestationの特徴、アサーション、レポートिंगの部分は特に混乱しやすいので自分なりのノートを作成し可視化しておくのと良いと思ひれます。英文に関してAUDは他の科目より独特な言い回しが多いので、パターンとして割り切って覚えてしまおうのが良いと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続は学歴審査から出願に至るまで、特に大きなトラブルはなかったと思います。学歴審査はラッシュサービスで追加料金を払うと納期がしっかり決まるので、急いでいる方にはかなりお勧めです。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

言うまでもない話ですが、当日のコンディションに気をつけることは非常に重要です。試験は一言で言ったら受験しているその瞬間に記憶があるかないかの話ですので、試験時間分の脳の体力を残しつつ直前に詰め込むことが大切だと思います。ですので必ず当日はベストコンディションで臨まれて下さい。

また大変ボリュームのある試験ですが、入念に対策を練ってけば必ず合格できる試験だと思います。USCPAはこれからさらに評価が高まっていく資格だと思いますので、自分の可能性を広げる意味でも多くの人にチャレンジして頂きたいと思ひます。



信念さえあれば。

菅野 真智子 さん

CIA（公認内部監査人）

2012年8月 USCPA試験合格（メイン州）

FAR：89点（2011年11月／1回目）、BEC：77点（2012年8月／1回目）

REG：79点（2012年5月／1回目）、AUD：82点（2012年2月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

CIAをTACで学び合格しました（2011年2月）。続けて資格にチャレンジしたくなり、TACのサイトで調べたところ、当時はUSCPA受験要件として、会計単位取得が不要な州がいくつか存在することに気づき、最終的にメイン州での受験を決意しました。日商簿記2級を取得後20年間経理業務に携わってききましたので、年齢的には遅いチャレンジでしたが、自分の経理キャリアの集大成になればという気持ちでした。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級

英語知識：TOEIC®TEST 930点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

前述しましたが、CIA受験の際にお世話になっていましたので、受講システム等理解できており安心感がありました。USCPA講座説明会にも出席しましたが、内田先生の力強い説明にも後押しされました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師の方々は、それぞれ特長があり皆さん印象に残っています。やはりテキストだけで学習するよりも、DVDを視聴することで、講師の方々によるちょっとした試験のためのアドバイスなど、とても参考になりました。最初に受験したのがFARでしたが、学歴審査とNTS受領に時間がかかり（のちに、私の手書きのメールアドレスを先方が読み違えていたと判明）、勉強開始から受験まで結局9か月もかかってしまい、学習時間は4科目中最長でした。もともとボリュームの多い科目ですし、特に社債やリースが苦手で、何度も草野先生の講義を視聴しなおしました。先生の臨場感あふれる檄というのか叱咤激励が特に印象に残っています。

教材ですが、BeckerのCDによる実践は効果大だと思います。私はTACの教材以外、他には一切使用しませんでした。テキストの内容は必要十分で信頼に足るものだと思いますが、やはり過去問の実践なしに、受験の感覚は身につけません。テキストをざっと理解したら、なるべく早くBeckerにとりかかすることで実践感覚が養えたと思っています。また、試験直前にはランダム100問の機能や、模擬テストも活用しました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信です。DVDを自宅で視聴しました。教室講義には一度も参加しませんでした。CIA試験に昨年2月初旬に合格したあと、間をおかず、2月中旬にUSCPA受講申し込みを行いました。すぐに学歴審査手続きを開始し、同時に勉強にもとりかかりました。とにかく決意がゆるがないうちに学習のペースを構築するべく必死でした。今年8月に最後の科目に合格しましたので、学習開始から合格まではちょうど1年半です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

私の場合、勉強開始の時点で50歳を超えていましたので、若いころと違って、記憶の流出が早いことが大きな悩みでした。そのため、18か月間で確実に4科目合格するために、3か月ごとに1科目ずつ受験する方法をとりました。勉強は3か月間1科目に集中し受験。試験が終わったら、次の科目の勉強を新たに一からスタートし、とにかく3か月後には必ず受験するというルールを徹底しました。準備が整ってからという甘えに自分に許してしまうと、なしくずしになってしまうと思いましたので。結果的に、11月、2月、5月、8月と3か月のペースを死守しました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

前述しましたが、NTSがなかなか到着せず、そのうち着くだろうと思っているうちに、学歴審査から通算すると既に5か月が過ぎてしまいました。メールで担当部署に問い合わせを行ったところ、私のメールアドレスの手書きの小文字のsを数字の5と読み違いをしていたことが判明しました。判明後は、すぐにメール添付でNTSが到着し、グアムテストセンターの予約ができましたが。この時思ったのが、メールが宛先不明で戻ってきたとしてもあちらは何のアクションもしてくれないのだということでした。こちらから問い合わせしなければ永遠にそのまま放置されていたのでしょうか。やはり、おかしいと感じたら早め早めのアクションが大事です。

私の場合、メイン州は途中から日本受験が可能になりました（同時に受験要件も厳格化）。そのため、11月、2月はグアム受験でしたが、5月、8月は日本での受験となりました。5月受験はすでにグアムテストセンターを予約していたため、予約し直しによる費用が余計にかかりましたが、渡航費用を考えれば安いので助かりました。しかし、当初計4回予定していたグアム受験が後半2回はとりやめになったことで、イベント気分がなくなり、少し寂しい思いもありました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

私のような年齢の遅いチャレンジでも、なんとか合格を果たすことができました。自分で受験日程を自由に設定できるところが、フレキシブルで便利な点ですが、ともするとマイナスに作用することがあるのではないのでしょうか。とにかく、自分で一旦合格までのスケジュールを設定したら、必ずそれに沿って受験する。私の場合、合格の秘訣はこの点に尽きると思います。途中で疲れても絶対に諦めない。自分の力を信じ続けることで必ず合格できると思います。



受験手続はお早めに！TACを信じて合格することができました。

風間 亜紀子 さん

証券アナリスト

2012年8月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）

FAR：78点（2012年5月／2回目）、BEC：76点（2012年4月／2回目）

REG：85点（2012年5月／2回目）、AUD：86点（2012年8月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

会社を退職してからしばらく転職活動をしていたのですが、当時目指していた外資系金融機関は情けないことに英語面接で苦戦してしまい、このままではいけないと感じていました。こんなに時間があるなら何かやろうと思って始めたのがきっかけです。

語学学校とも悩みましたが、英語+aということで、USCPAの学習を決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：証券アナリスト、システム構築で多少の経験、大学の簿記初級（3級程度）

英語知識：事前にTOEICの勉強をしていたので775点（815点が現在最高値、2011年9月）

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

証券アナリストの勉強をしていた際にTACを利用して、予備校の自習室に慣れていた点、DVD体験講義も利用して相性も確かめたが、問題ないと思った点からTACを選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

入学の際、テキストは他社比較しなかったのですが、やはりTACはテキストが充実していたと思います。他校の人と知り合って教材を確認し合う機会がありましたが、盛り込まれている内容がTACの方が充実していました。

私は財務会計があまり得意ではなかったのですが、FARのテキストは特に分かり易く、苦手な私でもテキストに戻れば分かるようになっていました。証券アナリストもTACですので、テキストの流れがなんとなく似ているので馴染みもあり学習しやすかったです。

日本人には馴染みがないREGのテキストもTAX、BLともに素晴らしかったです。サポート体制では、受講生サイトの日本語情報がきちんと管理されていました。

私が試験を受けている最中ですが、メイン州の受験要件が変更になったり、ニューハンプシャー州の学歴審査機関の変更があったりと影響の大きい変更がありました。いち早く情報を発信していたのはTACだけのようなので、後半は教室講義の受講生とも講師とも一体感が生まれてきて、講義終了が卒業式だと思った程でした。最近も1度皆で集まるなど、受験仲間ができたこともTACで良かったと思った事の1つです。

平日の自習室は快適ですので、平日に時間がある方にはおすすめです。教室フリーパス制度も非常にありがたい制度でした。

DVD通信講座で申しこみましたが、無料で教室講座にも通えますので、毎回講師に会え、受講相談もできますので活用させていただきました。阿辺講師には何度も相談に乗っていただきました。

講師は、どの先生も素晴らしいのですが特に、TAXの内田先生は他校と比べても頭1つ抜けていると思います。私は財務会計が苦手と先程申し上げましたがFARの草野先生の講義は非常に面白く、苦手意識をすぐに払しょくでき、頑張ることができました。

全体的にTACは全ての水準が高く、やりきれれば合格できる内容になっていると思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

講座説明会を受けて、DVD通信を選び、教室講義のフリーパス制度を利用しました。

1年間の学習の間に教室に通えなくなることも考えられますので、DVD通信がやはり一番おすすめです。合格までの学習期間は1年1か月程度です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

DVD通信でFARを、フリーパスを利用して教室講義でBEC、REG、AUDの勉強

強をしました。

またDL音声講義も活用しました（特にNPA）。

倍速機能があるポータブルプレーヤーがおすすめです。

全体的な学習の順番は、①講義を見る②TACのテキストを確認する③Becker累積正答率90%④リリース問題5年分という順番で解きました。

Beckerは1問ずつやると、止まってしまうこともあるので、ぜひ1問飛ばしや2問飛ばし等でどんどん量をこなしていただければと思います。1周、2周と繰り返していけば自然と正答率が上がっていくので最初解けない問題もいつの間にか解けるようになっていました。

唯一この手法で失敗してしまったのがAUDです。AUDは他の科目と違いBeckerを解いていくうちに問題と答えを覚えてしまっていたため、本試験で失敗してしまいました。

Beckerを解くときは、正答率ももちろんですが、そのプロセスを覚えることも大切です。分からなくなった時はテキストに戻り、定義・コンセプトを学びなおすと道がひらけると思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

私は日本受験が当時できなかったメイン州からニューハンプシャー州に途中から受験州を変更しました。

この際は、当時MAの講義期間中で、阿辺先生に2月受験に間に合わせたいと相談し、ギリギリ間に合わせました。1科目でも落としたり単位が足りなかったため緊張しながら単位認定試験を受けたのを覚えています。

また改姓していることで、FACS申請の際の書類集めに苦戦していて、教室講義に参加して小泉講師にも相談をしました。

大学では成績証明書の改姓を受け付けていただけなかったため、翻訳をして学歴審査機関に提出しました。WESは改姓に関しては柔軟な審査機関でした。

合格までですが、年明けから勉強が上手く行かず、2月に3科目受けて全科目落としてしまいました。4月、5月に再度4科目受けて3科目合格したものの、結局1科目また落としてしまいました。学習を始めた最初の半年はとても新鮮な気持ちで調子よく勉強できていたので、正直もっと早く受験できていたら…と思いました。特に年が明けてから勉強の調子が落ちてしまい、勉強している時間よりテレビを見る時間の方が多かった位です。

2月後半から気合いが戻ってきて、3月～5月は人生で一番勉強しました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

まず、受講を決めたら、受験できるステータスを早く手に入れることに注力してください。今後は追加の単位が必要な人も増えてくると思いますので、とにかく見込み受験制度や受験日を決めることが大切だと思います。日本の試験と違って、手続きで苦戦する人が本当に多い上に、複雑でころころ変わってしまいます。

私の場合は、当時まだ日本受験に参加していなかったメイン州で申請しようと準備していましたが、途中で日本受験に切り替える為にニューハンプシャー州に変更しました。成績証明書等の書類は少し余分に用意しておくなど、いつでも手続きができるようにしておくといいたいです。

困ったら私はすぐに教室講義で講師に相談するか、事務局にメールしてました。

教室講義には2時間、3時間かけて通学している人もいましたし、同じ目標を持つ人達が集まっているので、参加できるなら参加した方が良いと思います。

私は特に年明けから突然勉強が上手く行かず、本当に焦りました。同じ講義に参加している人が、受験して2科目合格したのをきっかけに再度奮起して3科目1タームで合格できたようなものなので、きっと参加していなかったらまだ勉強しているか、諦めてしまっていたと思います。

TACの講師、事務局のツイッター、BeckerやNASBAのツイッターも私はフォローしました。情報を得るといふ事やモチベーションを上げるという事も大切です。

そして最後になりますが、家族のサポートがあるから私は勉強を続けることができました。

家族には本当に感謝をしています。

これから学習をされる方も今学習されている方も、TACでやりきれば絶対に合格できると信じて頑張ってください。



努力は必ず報われます。あきらめないで学習を続けましょう。

小島 伸司 さん

同志社大学 法学部 2003年3月卒業

2012年8月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：85点（2012年5月／1回目）、BEC：76点（2012年5月／1回目）

REG：79点（2012年5月／1回目）、AUD：85点（2012年8月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

もともと、日本の公認会計士を目指していたが、論文式試験合格まで到達できなかった。とはいえ、会計を勉強してきたので、何らかの結果は残したいと思っていました。また、USCPA合格者の方と仕事で接する機会があり、日本の会計士よりもUSCPAのほうに魅力を感じたので、USCPA受験を決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日本の会計士試験で短答式試験には合格しているので、比較的、知識を有しているほうだと思います。

英語知識：TOEICのスコアで表すと、500程度

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

もともと、他のスクールでUSCPAの試験勉強をしていたが、科目合格状態にとどまっており、合格した科目の有効期限も切れてしまったので、思い切ってスクールを変えることを決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

Becker上級コースを受講しました。以前、利用していたスクールの教材に比べ、出題可能性のある内容を幅広く扱っているという印象であり、「Beckerの教材をきちんと理解しておけば、問題ないだろう」というのが合格後の実感です。また、内田先生のレジュメは試験に必要な事項が凝縮されていて、とてもよかったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信で学習しました。他のスクールで学習を開始した時から起算するとの学習期間は正味3年程度ですが、Becker上級コース受講から合格までの期間は1年程度です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

平日は仕事があるので、週末にまとめていくつかの講義DVDを受講しました。そして、次の週末までには受講した講義に該当する範囲の問題を解くようにしていました。

一通りの講義DVDの受講後は、BeckerのPassMasterを使って問題演習を重ね、学習内容の理解の向上と実践に慣れるように努めました。本試験のことを考えるとできるだけ、PC上で問題演習をするのがいいかと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続は学歴審査から出願に至るまで、特に大きなトラブルなく進みました。また、日本受験の際の会場予約もほぼ、希望通りの日程で予約できました。

最終合格した科目を受験した際、PCルームに入る前のチェックイン手続（指紋認証・写真撮影）にトラブルがありましたが、無事、受験することができ、合格までたどり着くことができました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

受験手続から本試験に至るまで、「英語」で行われる試験ですが、受験手続に関しては、TACの受講生サイトで確認できるので心配いりません。また、「あくまでも会計士試験」であることを意識し、英語で行われることに対して過剰に心配する必要はないと思います。専門用語を英語でわかるようにし、「問われていることは何か？」を理解して問題を解くことが重要です。

こつこつと勉強



M.N さん

2012年7月 USCPA試験合格（ニュージャージー州）
FAR：86点（2011年11月／1回目）、BEC：87点（2011年11月／1回目）
REG：82点（2012年7月／1回目）、AUD：89点（2011年11月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

ある会社で翻訳を担当しており、Tax memo等を翻訳する機会は多々ありました。ただ、会計や税務は専門用語のみならず、様々な制度も理解していないと正しく翻訳できないため、理解の部分に時間がかかってしまい、悩んでいました。

また、そろそろ専門性を高める必要も感じており、何か体系だった勉強をしたいと考えており、受講を決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

職業が翻訳でしたので英語力はそこそこありました。

また、前職は金融関係でしたので底辺となる金融知識はありましたが、会計知識はゼロでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

オフィスに近く、何か相談事があれば、メールでなく面談形式で相談するのに便利かと思い、決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

まず日本語で理解できるため、おおまかな概念を理解することができました。Beckerは非常に実践的ですので、私のように体で理解するタイプの学習者に向いていると思います。

また、Regulationの内田先生をはじめ、講師の先生方そしてスタッフの方々が非常に丁寧に細かい質問にも迅速に対応してくださり、安心して受験することができました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信でした。まる4年かかりました。（勉強したのは実質3年間でした。）

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

まずTACの教科書及びDVDを使って日本語で勉強し、その後すぐにBeckerの練習問題に取り組みました。問題を解くことにより、既に理解できていることとそうでないところがはっきりします。そこで初めてBeckerのテキストを、分からなかった部分にフォーカスして読みました。

練習問題は3回以上解いたと思います。最初に解けた問題でも時間を置いて再度挑戦してみると、前回気づかなかった出題者の意図や引っ掛けに気づくことがあり、それを理解するために再度Beckerのテキストに戻りました。回答の文章も間違えう度に読み、体で覚えるようにしました。

全体的にいえるのは、暗記ではなく底流にある考え方や概念の理解に重点を置いたことです。概念を理解すれば、細かいことを覚えていなくても正答できる問題が多く、暗記量を減らせるからです。日本の受験とはそこが違っていたと思います。

科目別には、FARに最も多くエネルギーを費やしました。中心的な科目だからです。次いでREG、BEC、AUDでした。勉強の仕方にほとんど差はありませんでした。

仕事と家事がありましたので、勉強時間は、出勤前の1-2時間と土日の10時間の合計1週間で15-20時間でした。ウィークデイは勉強時間が少ないので、解いた問題数よりもどれだけ理解を深められたかに重点を置き、週末のまとまった時間があるときに100-150問の問題を解き、分かっていない部分を把握するようにしました。家族がサポートしてくれて非常に助かりました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

実は受験手続が勉強と同じくらい大変でした。

- ・大学の専攻は会計とは無関係でしたので受験できる州が限られていたこと
- ・受験州はニュージャージー州を選択しましたが、途中で日本受験ができないことが決まってしまうグアムまで行かなくてはならなくなってしまったこと
- ・卒業大学がはじめ結婚後の新姓では成績証明書を出さないといったこと

等、非常に面倒で、正直手続きで途中めげそうになりました。

ただグアムではリラックスして受験することができました。日本で送迎タクシーを予約して行ったのですが、そのドライバーが気のいい人で、タクシーの中でお気に入りのテレビ番組の話などで盛り上がり、とても楽しかったです。

また、試験会場のスタッフも本当にいい人たちばかりで、1ドル札がなくペットボトルの水が買えず自動販売機の前で困っていたら、スタッフの男性が水を買ってくれました。今でも感謝の気持ちで一杯です。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

CPA合格には特別な才能はいらず、ひたすら丁寧にあきらめずに勉強すれば、だれでも合格できる試験です。あきらめず毎日の積み重ねを楽しんで励むことができるような勉強スケジュールを組むのが一番大切かと思います。



今始めるなら USCPA

小野 孝晃 さん

1990年生まれ
慶應義塾大学 2013年3月卒業予定（大学在学中合格）
勤務先：ジェネラルエレクトリック ファイナンス部門
（2013年4月より勤務予定）

2012年8月 USCPA試験合格（モンタナ州）
FAR：81点（2011年8月／1回目）
BEC：87点（2011年11月／1回目）
REG：78点（2012年5月／1回目）
AUD：85点（2012年8月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学在学中に、専門性があり武器となる知識を何か一つ身に付けたいと思っていました。ちょうどUSCPAの学習を始めようと考えていたころ、当時の話だと日本でも2011年ごろからIFRSが全面適用されるかもしれないという話を聞いたので、在学中に取得できれば就職活動にも活かせるし、将来的にも役立つと考え学習を決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

海外在住経験があるため英語力は問題ありませんでした。会計知識はほとんどありませんでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

DVDでのフォローアップやテキストの更新等、手厚いバックアップが提供されていたため。

毎週土曜日がTACの講義でしたが、大学の講義等で休まなければならないこともあり、欠席した回をDVDでフォローができたところがありました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講義は非常に分かりやすく、テキストも要点をおさえているので、Beckerの分厚いテキストを読まなくても理解できるようになっていました。

TACのカリキュラムに沿って遅れないように学習をすれば自ずと合格が見えてくると思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信講座を申込み、教室フリーパス制度で教室で講義を受けました。

合格までの学習期間は合計2年程度です（途中、就職活動含む）。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全般的に一度理解をし、その後本試験に向けて科目別になんげずつ受験をしました。

REGとAUDは学生にとってはあまり馴染みのない分野でしたのでイメージを掴むのが難しかったです。対策としてはこつこつTACのテキストを読み、問題集等で重要と書かれている論点を中心に勉強しました。

AUDの1回目は2012年5月にREGと同時受験をしたのですが、準備が少し足らず74点と1点足らずで落ちてしまったの

で、非常に悔しかったです。

その後8月に85点で合格し、全科目揃えることができました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続のカード支払いでうまく引き落としができず、もう一度振り込んで欲しいという連絡がきたことがありました。その後カードで支払いをしたのですが、一向に確認のメールが来ず、メールもしましたが返信もなく結局直接電話をして確認が取れたということがありました。

海外在住経験があるため、アメリカ人の気質には多少免疫がありましたが、やはり日本人のサービスの質は世界どこにいてもトップクラスだと思います。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

私の場合、主に就職活動では金融機関、メーカーのファイナンス部門、商社を受けました。

いずれも会計の知識やビジネス知識が必要なので、USCPA 2科目合格時点ですが、面接では十分評価をしてもらえたと思います。

「会計や財務に興味がありますか？」と聞かれた時も、自信を持ってUSCPAを学習している事や、科目合格のことを話せました。

またUSCPA試験は他の資格に比べ、自分のペースで勉強を進められることがメリットだと思います。就職活動にも活かせるし、せっかく勉強したのですから実績を残すといった面でもUSCPAはチャレンジしがいのある資格だと思います。

TACのカリキュラムに遅れをとらないように勉強を進めて行ければ決して難しい試験ではないはずです。会計士取得者や社会人だけではなく、簿記等からのステップアップとしても、もっと多くの学生にチャレンジしてもらいたいと思います。



諦めなければ必ず合格できます。

岡崎 高之 さん

立命館大学 1996年卒
勤務先：BIG 4系のアドバイザー会社
不動産鑑定士、公認内部監査人（CIA）

2012年5月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：80点（2011年5月／4回目）、BEC：76点（2012年5月／4回目）
REG：75点（2010年11月／3回目）、AUD：79点（2012年5月／4回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

4年間勉強に専念して日本の公認会計士試験にチャレンジしましたが合格できず、仕事をしながらでも日本の公認会計士試験の知識を活かせると思いUSCPA試験にチャレンジしました。仕事やプライベートが忙しく一度はUSCPA受験を断念しましたが、BIG4系のアドバイザー会社に転職したのをきっかけに勉強を再開しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力はTOEICのスコアが390、会計知識は日本の公認会計士の受験レベル。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

これまで宅建、不動産鑑定士、日本の公認会計士の受講でTACを利用しており、特徴や実績などよく理解していましたので、USCPAでもTACを信頼して選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

TAC & Beckerという日米最強の教材を利用できることで教材に迷いはないということです。特にBeckerの実践トレーニング集（問題集）は紙ベースなので通勤時の電車の中や昼休みなどの隙間時間を有効活用できました。さらに杉浦先生や内田先生といった優秀な講師がいることもTACの強みだと思います。一度だけ5年間継続再受講制度を利用してTAXの教室受講をしましたが、授業で強烈なパワーを感じました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信、後に5年間継続再受講制度を利用したときはWEB通信。合格までの学習期間は約6年です。受験要件の単位取得が終了した後、結婚、転職、子供の誕生と公私ともに忙しくなり一度受験勉強から離れていましたが、3年前に再開しました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

3科目の合格まではテキスト中心で比較的簡単に合格できましたが、あとAudit 1科目が合格できず、そこから合格科目がExpireしたり、仕事が忙しくなり受験を直前でキャンセルせざるを得なくなったり、マルチプルチョイスが完璧だったのにWritten Communicationで次に進むボタンを押したつもりが試験終了のボタンを押すという信じられない操作ミスがあったり、73、74点での不合格が連発したりと苦しい期間が続きました。そこで合格するために必要なことは何か再度真剣に考えた結果、本番で1点でも多く確実に積み重ねる工夫をし

ました。特に私はマルチプルチョイスが得意（Stronger）で、Simulations及びWritten Communicationsが不得意（Weaker）だったので、Sim対策としてBeckerをすべて解くこと及びW.C.対策として定型分の暗記（始まりと終わりの文）、英作文の決まりごと（単語の使い方、同じ単語や言い回しを何度も使用しない、文章の構造、体裁など）を徹底しました。インプットの知識や問題集で間違ったところなどは直前対策テキストや内田先生の直前対策まとめなどコンパクトにまとめたものに一元化して試験直前には数時間で1回転できるようにしておきました。

最後に私が当初テキスト中心に勉強していたのは英語力の低さからBeckerを解くことを怠っていたのだと感じています。今になって思うことは英語力がないからこそ、単語や内容を理解するためにもBeckerの問題を解く訓練をすることがもっとも必要だったと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験当初は海外での受験であり、仕事もかなり忙しかったため、半年に1度受験するのがやっとでした。しかし思うように勉強が進まず結局ほとんど勉強せずに受験を余儀なくされることが多かったです。でも日本受験が始まり、仕事が忙しい人にとって本当に受験環境が一変したように思います。私が最終的に合格できたのは家族や職場の同僚の協力のおかげだと思います。特に試験直前の休日に幼い子供たちを外に連れ出し私に十分な勉強時間を確保させてくれた妻には本当に感謝の気持ちで一杯です。余談ですが、妻とはTACのUSCPAのセミナーで出会いました。その妻は結婚、子育てで受験を諦めることになりましたが、私の一番の理解者であり、応援者として最後まで私を支えてくれました。4科目目の結果のときは、私がフィリピンに語学留学しておりメールを確認できない状況だったため、妻に結果を確認してもらうことになりました。結果としては最終合格を妻が一番最初に見ることになりましたが、これは今まで私を支えてくれた妻へのプレゼントになったかなと思いました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPA試験は合格率が45%前後であることから、正しい勉強方法と準備があれば比較的合格しやすい試験だと思います。仕事が忙しい人は帰宅後に勉強することは難しいと思いますし、家族がいる人は休日もなかなか勉強時間がとれないと思います。私は通勤時の往復の電車の中で1時間、早朝のカフェで1時間半と勉強時間を確保しました。人それぞれ置かれている環境は違うと思いますが、工夫しだいで必ず合格できる試験であると思いますのでTACを信じて合格を目指して頑張ってください。



努力は決して裏切らない。諦めない。諦めない。諦めない。

佐藤 雅則 さん

勤務先：銀行 M&Aグループ所属

2012年5月 USCPA試験合格（メイン州）

FAR：84点（2011年5月／1回目）、BEC：82点（2010年11月／1回目）

REG：88点（2011年11月／1回目）、AUD：93点（2012年5月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

私は銀行勤めをしていますが、同じ企業グループの証券会社に出向し、投資銀行部門（M&A）で仕事をすることがありました。そこでは様々な出身企業、経歴、資格（MBA、会計士、U.S.CPA）を持った人達との出会いがあり、自分も何か強みを持つ必要があると思ったことが、勉強を始めようと思ったきっかけです。弁護士・会計士の方々と仕事を共にするだけでなく、英文会計・英文契約書や米国の法規制に接する機会が増えたこともあり、U.S.CPAならばそれらをより理解し、能力とキャリアの両方を高められるのではないかと考え、試験にチャレンジすることを決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級
英語知識：TOEIC®TEST 860点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

総合的に検討した結果、TACの教材・学習環境が最も素晴らしいと感じたことです。具体的には、U.S.CPA 試験に実績のあるBecker教材を使用した設計となっていたこと、BRADLEY大学の単位認定試験プログラムがあったこと、受講生へのフォロー体制（質問、5年間継続再受講制度）が充実していること、職場から最寄りの校舎が近いこと、これらの理由から他校でははくTACに決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

Beckerが非常に良かったです。どの試験科目も「Beckerで解いた問題が出た」と本番中に思ったことは数えきれない程です。とはいえBecker教材はレベルが高く、いきなり理解できるものでもなかったため、初学者でも自学自習で理解できるように構成されたTACの日本語教材もまた不可欠の存在であり、とても素晴らしい内容でした。特に内田先生のFAR（NPA）とREG（TAX）の「直前対策まとめ」は秀逸で、まとまりの素晴らしい美しさすら覚える感動的な教材でした。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

働きながらの受験ということもあり通信講座（DVD）にしました。学習期間は1科目ずつ受験したことから全部で2年半かかりました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

<全般的なこと>
・インプット段階
TACのテキストと問題集を読んで理解しながら自作の「まとめ用紙」を作成しました。スリーブの内ポケットに入れて通勤電車で学習できるよう、ノートではなく、A4用紙（無地）にTACの各章別の論点や計算方法について、土日をを使って「まとめ用紙」を作成し、平日の電車内で毎日必ず目を通しました。FAR（NPA）とREG（TAX）については「直前対策まとめ」をコピーして持ち歩きました。平日は土日に勉強した範囲を2～5回復習して記憶の定着を図りました。したがって、平日に新しい論点の学習は増やさず、1週間単位で学習を進めていきました。勉強時間に関しては、土日は約8～10時間/日、平日は毎日3時間勉強を行い、試験直前までこのペースを最低崩さず維持しました。インプットは概ね2ヶ月を目安に全範囲を一巡させました。
・アウトプット段階
土日にTACのテキストと自作の「まとめ用紙」を各章別に再度読み直し、Becker（MC）を100問～200問程度解きました。平日は仕事の疲れを考慮して一切新しいことは行わず、土日に解いた問題を制限時間以内に全て正答できるよう、ひたすら繰り返し解くトレーニングを継続しました。Simulation はMCを一巡した後に取り掛かり、そこでもMCと同じ学習方法を繰り返しました。学習回数にすると、土日に1回、平日に2～5回、合計3～5回行っていました。アウトプットは概ね3ヶ月を目安に全範囲を一巡させました。
・試験直前段階
試験直前の約1カ月前からMCとSimulationの全範囲を更にもう一巡し、各論点の横のつながりの理解を行いながら、間違えた問題とあやふやな理解の問題に全てチェックマークをつけていきました。この時期の勉強時間は休日10～15時間/日、平日3～5時間/日となることもありました。
・試験前日・当日
試験前日は直前1カ月前にチェックマークした問題を全て解き直しました。試験当日の朝は自作の「まとめ用紙」やTACテキスト「直前対策まとめ」を一通り読み、試験開始直前まで情報を詰め込みつつ、気持ちを整えることに集中しました。

<科目別>

・BEC
大学時代に原価計算や経済学は学習していたので比較的容易に感じつつも、ITのみ過去に全く学習経験の無い分野であったため、全体像や基本を理解するのに苦労しました。辞書代わりに「ITパスポート試験」のテキストを書店で購入し、必要箇所をつまみ読みしながら不足していた基礎部分の理解を埋めていきました。その他の分野はTACのテキストのみで十分に対応できました。そのせいか、最初に受験したこの科目のみ一度もBeckerテキストを開くことなく合格することができました。
・FAR
2科目目のFARはひたすら学習範囲・問題演習量の多さとの戦いでした。TACのテキストでカバーされていない問題については、BeckerテキストのExampleを面倒に思わずぐっと我慢して取り組み、全範囲きちんとやりきって試験本番に臨みました。前述のインプット、アウトプット、試験直前の学習スタイルはこの科目で確立しました。
・REG
3科目目のREG（TAX）はTACの問題集およびIRSのHPからFormをコピーし、問題演習の都度、繰り返し手で記入してForm記入の流れを体で覚えしました。REG（BL）は問題を解く前に必ずテキストを読み返して記憶の定着に努め、「Perfection（担保権の完全化）」や「会計士の法的責任」などの複雑な論点は自分で全問題パターンをまとめ、繰り返し目を通しました。TACのテキストが十分論点をカバーしていたため、Beckerテキストはほとんど使用せず、20～30分程度読むだけで十分対応できました。試験本番も12分程度時間が余り、Simulationの全問題を見直す時間を持つことができました。
・AUD
最後のAUDは何時間勉強してもなかなか内容を理解できず、先に進まないことが何度もあり、最も苦しい科目でした。学習開始から4か月目ようやくBeckerの全範囲が終わりでしたが、試験本番まで残り2カ月を切ったタイミングでも、問題を解き直す自力で全く解くことができず、正直心が折れかけていました。そこで、思い切って問題演習の量を少なく抑え、代わりにOpinionのバラグラフ修正パターンや5Componentsの全項目名、Attestationの種類、AssertionとProcedureの関係、各Transaction Cycleなど、全範囲の必須内容を自作で10ページにまとめ、それを1ヶ月間毎日紙に書き、何も見ずに再現できるレベルまで記憶する作業を行いました。Beckerのテキストにも大項目には全て目を通し、PlanningやInternal Controlの論点は詳細部分まで読み込みを行いました。この作業の甲斐あってか飛躍的に問題が解けるようになり、残りの1カ月で全範囲を見直した時には、ほぼ完璧に内容を理解し、本番でも10分弱のトイレ休憩した上で、更に20分程度時間が余るレベルまで解答スピードがアップしました。結果として、4科目中最も高い点数を取って合格することができ、充実した内容で無事に試験を締めくくることができたと思っています。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

最初の3科目はグアムで受験しました。1科目目を受験した2010年当時、試験会場のバンクオブハワイはものすごく寒く、震える程でした。私は暑がりなのですが、長袖を着て受験し、それでも寒くて試験中に近くなったトイレと格闘しながらの試験となりました。試験後のアンケートでその旨コメントしたところ、1年後の受験時には改善され、クーラーの設定温度は適度な状態に保たれていました。私人のコメントが採用された訳ではないのですが、困ったことは何でも言うてみるものだと思います。
最後の科目もグアム受験予定だったのですが、試験2カ月前に偶然メイン州も日本受験可能となったため、グアム予約を即座にキャンセルして日本受験の申込を行いました。
メイン州の日本初受験組ということもあってか、システムデータがうまく連携処理されず、日本受験予約がそもそもできない状況が1週間程続きました。「このままだと受験できないまま、1科目目がExpireしてしまうのでは」と気をもむ毎日大変焦りましたが、その後、NASBAの職員からEメールが届き、返信すると数日後には手作業で問題が処理され、日本受験の座席を無事確保することができました。試験運営側のシステムオペレーションは今後改善がなされていくものと思われませんが、受験者一人一人への配慮を感じた出来事でもありました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S. CPAはとにかく最後までやり抜くことが大事な試験です。私がいつも自分に言い聞かせていた3つの「諦めない」があります。まず1つ目が「勉強を途中で諦めない」。勉強途中で行き詰まっても心がしぼみ、全てを投げ出したくなる場面が幾度もあります。それでも諦めずに本番当日まで努力を続けることが、最後の最後で実を結び試験だと痛感しました。そして2つ目が「試験本番も最後まで決して諦めない」。何度解いても計算が合わない問題に遭遇し、不幸にも他の問題を解く時間までロスして「間に合わない。もう駄目だ！」と試験中に絶望する場面もあります。FARが正にそうでした。そんな時こそ試験当日まで積み重ねた努力を思い出し、最後の1秒がなくなるまで諦めないことが合格を呼び寄せる結果となります。最後に3つ目が「自分の可能性を諦めない」。自分が本当に合格できるのか？との不安が常につきまといまいます。留学や海外駐在経験の無い私は尚更でした。それでも自分の可能性と未来を信じ、最後まで勉強をやり抜くことができれば、努力は決して裏切らない試験だと思っています。



目標とスケジュール管理と諦めないで続けること

清水 謙樹 さん

1982年生まれ
勤務先：コンサルティング会社

2012年5月 USCPA試験合格（メイン州）
FAR：89点（2012年2月／1回目）、BEC：77点（2012年2月／1回目）
REG：80点（2012年5月／1回目）、AUD：89点（2012年5月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

会計システムのコンサルティングの仕事をしていたため、簿記・会計に興味を持ったことがきっかけです。国際的に評価の高い資格を取ることでグローバルに活躍したいと考えUSCPA試験にチャレンジしました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力はTOEIC700点程度、会計知識は簿記2級を持っていました。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

いくつかの学校をWeb等を見て検討していましたが、TACはやはり大手であるため、信頼がおけると思いました。また、時期によって仕事が忙しくなることがあったため、5年間継続再受講制度があるというのもポイントでした。結果的に再受講することになったので、正しい選択だったと思っています。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

よかったところは、講師の方々の授業の進め方と熱心さに尽きると思います。教材や試験制度のアップデート情報等サポート体制も整っており、草野先生のメルマガやTwitterなどのおかげでモチベーションも保つことができました。

私は他社の教材を使っていないので比較評価できませんが、TAC問題集、Beckerをやり込めば合格レベルに達することができます。また、REGのTAC問題集は英文だけではなく、全ての問題に日本語でポイント解説を記載してくれているためとても助かりました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

受講開始時(2009年春)から1年間教室通学していました。全教科の受講を終え、試験に向け自習を始めてすぐに長期海外出張が決まりました。私自身、海外での仕事の経験がなかったことと英語もそこまで得意ではなかったため、仕事に集中するためUSCPAの勉強を中断することにしました。約1年半の出張期間を終え、仕事の合間ということもあったので会社を半年間休職して学習に専念しました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

講義を聞きポイントを理解した後、内田先生担当以外の科目(NPA, TAX)はまとめノートを作り、その後問題をひたすら解きました。TAC問題集、Becker問題を3回転やりました。

問題は田中先生流に1回目に合っていたものは○。合っていないけど自信のないものは△。間違っていたものは×。2回目からは×を中心に解くというやり方で解いていきました。またBeckerの問題は同じようなタイプの問題が複数含まれるため、一つ飛ばして解き、出来るだけ早く科目の全体像をつかみ、2回転目に飛ばした問題も解きました。

試験日までやるべきことを月・週・日に落としたタスクリストと章別に解いた問題の管理をExcelで行いました。

まとめノートもExcelで作成し、隙間時間にスマートフォンなどで見ていました。

FAR：とにかく問題をたくさん解きました。Corporate bond, Lease,

Pension, Interperiod tax allocationなどが苦手だったため何度もやりました。本試験では時間が足りず、SIM問題は大問1問丸々とResearch問題に手を付けられませんでした。MCを慎重にやり過ぎてしまいました。本試験ではなかなか難しいと思いますが、Final examなどで自分なりの時間の使い方を把握しておき、解けない問題は切り替えて前に進む勇気も必要だと思いました。

BEC：範囲はそれほど広くないのですが、サブ科目が多いので苦勞しました。Written Communicationは、MCの2回転目が終わった頃に初め、英文文に慣れるためそこからは定期的に練習しました。本試験ではタイムマネジメントに失敗し、MCに時間を使いすぎてしまいました。急いでとりあえず書いたのですが、ギリギリの合格だったので、その最後足掻いた分の点数がなかったら不合格だったかもしれせん。最後まで諦めないことが大切だと思いました。

REG：範囲が広く暗記することも多いため時間がかかりました。ただ、内田先生の直対まとめや杉浦先生の指摘するAランク論点は試験によく出る問題に直結していますので、集中的に理解し問題を解く練習を積むことで効率よく勉強できました。

AUD：4科目の中で一番苦勞しました。学習期間中、MC問題の1回転目は間違いだらけで、選択肢の中に答えが複数あるように感じた問題もたくさんありました。ストレスを溜めながら解説を読み込みました。ただ、2回転目からは徐々に難しく感じなくなりました。意外にもパターンがそれほど多くなく、求められる答えもある程度読めるようになってくるからだだと思います。それからAUDは各種違いをしっかりと認識することが重要だと思いました。例えば、監査のどのフェーズで行う事項なのか、それがSubstantive testで行われるものなのかTest of controlで行われるものなのか、ReviewとCompilationは何が違うのか、など。本試験で問題が出たときに答えられるように日頃から整理しておくことをお勧めします。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続は日本の資格と比べてかなり手間がかかり大変だと思います。出願当時、単位が不要であったメイン州に出願したのですが、途中で受験要件が変わり、単位が必要になりました。私は変更の少し前に科目合格していたため影響を受けずに済みましたが、受験制度が変わりやすい資格で注意が必要です。

本試験はグアムで受けました。試験会場には日本人以外にも中国人、韓国人の受験者も多く、改めて国際的な資格であることを認識しました。試験開始前はかなり緊張しましたが、問題を解いているうちに徐々に集中できました。室温は適切にコントロールされており、暑くも寒くもなく快適でした。半袖1枚の人も居ましたが、上に羽織る長袖も一枚持って行くといいと思います。試験終了後、張りつめた緊張感が解き放たれ、飛行機の時間までタモンのビーチを歩いたりしていました。とても開放感がありました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

学習中も試験の最中も決して諦めないで欲しいと思います。この試験は他者との競争試験ではなく、まさに自分との闘いです。国際的に信用のあるアメリカの資格というスケールからはイメージがかけ離れていますが、問題練習を愚直に続けることが合格に近づくための唯一の方法だと思います。

たとえ今、試験でいい結果が出ていなくても前を向いて諦めないで下さい。USCPAの勉強を始めて、本試験まで辿り着けているということは、様々な障害を乗り越えて来ている訳でなかなか出来ることではないと思います。そこまで来たらもう、ぜひ合格の喜びを味わって頂きたいと思います。



やるべきことと期限を明確に

M.I さん

2012年5月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）

FAR：86点（2011年11月／1回目）、BEC：76点（2012年5月／2回目）

REG：75点（2012年2月／1回目）、AUD：91点（2012年5月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

会社の先輩に勧められたのがきっかけです。英語・会計スキルを強化できるのと同時に、ビジネス全般の実践的な知識が身につけられることが魅力的でした。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級

英語知識：TOEIC®TEST 800点台前半

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

TACと他社1社で検討した際、TACのほうが、

- (1) Beckerと提携するなど教材が充実していそうだった
- (2) フォローが充実している

費用が比較的安く職場と帰宅途中に校舎があり通いやすいということから選びました。また、出願州の相談をしたスタッフ・講師の方の対応が丁寧であったことも好印象でした。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

科目全体の論点を整理するのに、総まとめ講義とそのテキストが役立ちました。また、TAX/NPAの『直前対策まとめ』はきめ細かく丁寧に作られており、かなり活用できました。

講師陣も熱意のある方ばかりで、密度の濃い講義が受けられました。また、質問に行った際も丁寧に対応していただきました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通学で学習し、何回か教室講義にも参加しました。合格までの学習期間は1年半弱です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

【全般的なこと】

全科目とも、まずは講義を一通り受講してしまい、その後、Beckerと過去問を解くといった流れで勉強しました。基本的に、講義受講後すぐにテキスト掲載問題とTAC問題集を解いて学習範囲を復習していました。Beckerは1～2問飛ばして解き進め、supplemental questionsには手を付けませんでした。また、間違えた問題、理解が曖昧な問題に印を付けておき、繰り返し解き直しました。

【科目別】

FAR/BEC:この2科目を最初に受験しました。試験日3週間前に両科目のFinal Examを解いたのですが、FARが正答率

60%も満たない結果となったため、最後のほうはFARに注力して勉強しました。結果、FARは合格したのですがBECは不合格となりました。今思うと、焦ってFARばかり勉強してしまい、BECの特にWC対策がおろそかになっていたのが原因でした。

REG/AUD：受験までの準備期間が約2.5ヶ月しかなかったため、とにかく怒涛の勢いで未受講の講義（REG：1/2、AUD全部）を受講しました。REGは厳選問題集と直前対策集のSIMのみ解き、AUDは2問飛ばしてBeckerを1回転しました。AUDは問題数が多かったためMC対策に時間が取られてしまい、SIMの対策が十分とれませんでした。結果、何とかREGは合格しましたが、AUDのSIMがweakerで不合格となりました。

BEC/AUDの再受験：Becker問題集（MC/SIM/WC）を一から解きなおし、間違えた問題は解説を熟読して理解を深めました。AUDは一覧表を作成し、reportingの内容を整理しました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

初回の受験手続（2011年5月/オンライン）をした際、NTSが予想より2週間ほど早く届いたため、有効期限が受験希望日より前になってしまいました。再受験の手続き（2012年3月/オンライン）では、申込後2日でNTSが届いたため、NTS発行までの期間が以前より短縮されていると思います。

1回目の受験で他の受験者がキーボードを叩く音が気になったため、次から耳栓を持参しました。会場にも消音用のヘッドフォンが置いてありますが、耳栓の方ほうが音漏れがなく集中できるのでお勧めです。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

私は最初に全体的なスケジュールをしっかり立てなかったため、前半のFAR/BECの受験対策に押されて、後半のREG/AUDの勉強時間が十分とれませんでした。学歴審査や受験手続などが計画通りに行かないこともあるかと思いますが、最初に勉強量や手続きにかかる時間などの全体像を抑え、やるべきことと期限を明確化しておくことが短期合格の鍵になると思います。

また、思うように勉強が進まないときがあるかと思いますが、一つ一つ積み重ねていけば必ず結果が出ますので、諦めずに頑張ってください。



平日の朝の時間を有効に活用

M.S さん

1972年生まれ
一橋大学 経済学部卒
勤務先：金融機関

2012年5月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：93点（2011年11月／1回目）、BEC：80点（2012年2月／1回目）
REG：90点（2012年5月／1回目）、AUD：89点（2012年2月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

財務会計・会計監査を英語で体系的に学習できる教材を探していたところ、2011年8月からUSCPAの日本受験が可能になることを知り学習を決断した。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：会計知識なし
英語知識：TOEIC®TEST 945点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

複数の予備校に資料請求して内容を比較した。最大手という安心感もありTACに決めた。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

教材の量が多く、特に講義については進むスピードが速くて消化不良になることもあったが、一方でボリュームが多いだけにUSCPAの広い試験範囲をよく網羅しており、実際の試験において全く手も足も出ない問題は少なかったように思う。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信講座
1年4カ月（2011年1月～2012年5月）
最初の約半年は学歴要件を充足するための会計単位の取得に要した。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

平日は会社の近くの喫茶店で朝7時から1時間半程度、休日は可能な限り多くの時間を勉強に費やした。USCPAの勉強は長丁場なのでメリハリをつけることとし、期間を3か月単位で区切り、最初の2か月間はあまり無理をせず、試験直前の1か月は平日の夜・通勤時間も含めて勉強に専念した。

DVDでひと通り講義を聴いた後は、TAC問題集・Becker問題集・AICPAリリース問題を可能な限り数多く解いた。

科目ごとに色々な勉強法を試行錯誤したが、田中先生のアドバイスに従って、Becker問題集につき1回転目は1問飛ばしで早めに問題集を最後まで解き終え、2回転目に1回転目に間違えた問題と飛ばした問題を解き、3回転目は間違えた問題のみを解くという方法が自分には一番合っていたように思う。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

全科目東京で受験した。日本で受験すると費用が高くなるが、自宅から1時間程の場所で受験できるという安心感があった。

プロメトリックセンターに所定の集合時間よりも余裕を持って前に行くと、あまり待たされることなく早めに試験を開始させてもらった。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPAは試験範囲が広く、必要とされる勉強量も多いですが、試験自体の難易度は決して高くないので、一定期間地道に努力を継続すれば必ず合格できると思います。

朝は頭も冴えていますので、早起きの習慣をつけて平日の朝の時間を有効に活用することをお勧めします。



MBAとU.S.CPAを同時並行

矢口 光彦 さん

1971年生まれ
慶応義塾大学院 経営管理研究科
MBA

2012年4月 USCPA試験合格(メイン州)
FAR: 77点(2011年8月/1回目)、BEC: :81点(2011年8月/1回目)
REG: 79点(2012年2月/2回目)、AUD: 75点(2012年4月/3回目)

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは?

2年前にエレクトロニクス業界に勤めていましたが、業界を変えて転職をしようと思ったのがきっかけです。
MBAとUSCPAのダブル取得を考え、会社を辞めて大学院に通いながら、2011年1月からTACの新宿校でUSCPA講座を受講し始めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は?

会計知識: 日商簿記2級
英語知識: TOEIC®TEST 885点
英語は大学の学部制の時に留学経験がありましたので、社会人になる時には同じくらいの英語力がありました。

Q3 TACをお選びいただいた理由は?

基本情報技術者をTACで学習した経験があり、講義やカリキュラムが分かり易かったのでUSCPAもTACを選びました。また、知人がTACでU.S.CPAを取得しており身近に感じたことも理由の一つです。

Q4 TACの講座でよかったところ(講師、教材、カリキュラムなど)

大学院に通いながらもUSCPAの学習を同時並行できる最短距離のカリキュラムが良かったです。
私の場合、DVD通信講座を申し込みましたが、基本的にはフリーパス制度を最大限利用し、FAR、BEC、REGは新宿校に通い、AUDは渋谷校に通って学習をしました。
フリーパス制度を使用してREGとAUDの学習期間を重ねることで、2011年12月~2月を修士論文に充てることができたことも良かったです。
講師では、阿辺先生と内田先生が印象的でした。
管理会計は良くまとまっていて、簿記2級の知識をすぐに思い出すことができ一番学習時間が少ないのにも関わらずBECは一番高得点で合格できました。
REGは細かい論点が多いのですが、直前対策まとめがありましたので、効率良く学習ができました。苦手意識があったのですが、繰り返し学習をしていけばパターンが掴めていきますので、やはりまとめ教材の存在は大きかったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか?合格までの学習期間は?

通信DVD講座を申し込みました。
実際の講義はフリーパス制度で教室講義に出席し、休んだ時だけDVDでフォローをしました。
【学習期間】
インプット: 2011年1月~10月
アウトプット: 2011年4月~2012年4月

Q6 合格までの学習法(全般的なこと/科目別)

【全般的】
全科目共通ですが、まずTACのテキストを時間をかけてじっくり読み、その後TACの問題集を解き、最後にBecker教材と直前対策まとめを繰り返し解きました。
Becker教材ですが、マルチプルチョイスは一度に多くの問題を解くのではなく、数問を解いてから答え合わせをするようにしました。最終的にまとめて答え合わせをしまうと、なぜ自分がその選択肢を選んだのかを忘れてしまい、ただ単に答え合わせだけになってしまうので、最初のうちは数問ごとに解答解説を読むのがおすすめです。

【科目別】

FAR: FAR3の連結の部分になかなか馴染みがなかったので、理屈を覚えるのに苦労しました。直感的ではない仕訳がいくつかありましたので、正解の形から先に覚えることで対応しました。
REG: 実際に試験を受けるとBusiness Lawや倫理の部分が思ったより多く出題されました。細かい論点は直前対策まとめを使用し、原理原則を覚ええました。
AUD: 個人的にはAUDが一番難しかったです。
4択から2択まではだいたい絞ることができ、何を聞かれているのかは分かるのですが、問題文のニュアンスでどちらの方向で聞かれているのかが分かりづらいため、真逆の答えを選んでしまっていたりしました。
これはTOEICの点数の英語力とは違う世界の問題だと思います。
これから学習される方は、問題を多く解き、質問がどういう角度で聞かれるかに慣れることと、倫理規定や会計士の独立性のような抽象的なところも意外と大切ですのでここをきちんと覚えることをおすすめします。
学習の後半になると、そのあたりは、分かったつもりになってサラッと読み流してしまいがちですが、やれば点を取れる箇所なのでここもしっかりと学習した方が良いと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

この試験で感じたことは、日本の常識に比べてアメリカは、細かいことを要求する割には自分たちはおおざっぱであるということです。
例えば、Webで申込みをするとき、名前や住所はもちろん出身大学やアンケートについても細かく聞かれますが、大学を選択しようとする日本の大学がそもそもなかったり、システムの進めない箇所があったりしました。
当時、メイン州が日本受験に参加するかもしれないという話もあって、出願の判断が非常に難しくストレスを抱えたりもしましたが、FARの小泉先生がそのあたりの相談に乗ってくれて非常に助かりました。
結局、メイン州は日本受験に参加をしませんでしたので、旅行代理店のグアム試験ツアーを利用し受験をしました。ピックアップが1回だけ遅れてしまったことがありましたが、それ以外は特に問題なかったです。
個人でホテルを予約して、試験会場までタクシーを手配する等の手間が必要ありませんでしたので、試験に集中できて便利でした。
最後の1回だけ自分でホテルを取ったのですが、朝はタクシーがつかまるかどうかなどの不安がありましたし、レンタカーを借りましたが試験会場の駐車スペースもどこか分かり難く戸惑いました。また、ナビも付けましたが、グアム空港を正しく案内してくれなかったという不具合も起きましたので、個人的には試験に集中したい方は旅行代理店のグアム試験ツアーも悪くはないかなと思います。
結婚した時に家族でグアムに来たことがありますが、まさか短期間で一人で何回も行くことになるとは思いませんでした。
グアムに一人旅をする経験はなかなかありませんので本当に貴重な経験になりました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

早めに問題を解き、問題がどういう角度から聞かれるか慣れておくことと、原理原則を覚える為にテキストをじっくり読んで、自分なりのノートやまとめを作っておいた方が良いと思います。きれいに書き直す必要はありませんので、何度も同じミスをしないう原理原則を見返せるまとめを作っておけば試験前にきつと重宝すると思います。
私の周りにはUSCPAを取得している人がいて、キャリア上きちんと活かされていますので、この資格は取って終わりというわけではなく、実際に使える資格だと思います。
皆さんもぜひ合格を目指して頑張ってください。



TAC × Becker を選ばない手はありません。

角川 靖朗 さん

1980年生まれ
桃山学院大学 社会学部 2003年卒
勤務先：商社（経理部）

2012年2月 USCPA試験合格（メイン州）
FAR：82点（2011年5月／1回目）、BEC：79点（2011年11月／2回目）
REG：79点（2011年11月／1回目）、AUD：77点（2012年2月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

もともとは、前職でわずかですが経理・会計業務に携わったことから、自己啓発の一環で日商簿記2級の学習を始めました。その際に、会計の重要性に感銘を受け、本格的に会計の知識を生かしたいと思うようになり、せっかくならUSCPAにチャレンジしたいと思ったのがきっかけです。

また、日本の会計基準は少なからずアメリカの会計基準を追従しているという点や、米国の基準とIFRSとでは大きな差異は解消されているという点を鑑み、これからますますグローバル化が進む社会で、会計と英語を同時に勉強できるUSCPAは非常に有意義であると思いチャレンジを決意しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級習得（日商簿記1級学習経験有り）
英語知識：英検2級・TOEIC®TEST 500点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

義兄もUSCPAを取得していましたが、その際に使用した教材はBeckerであり、「Beckerを使わない手はない」との勧めや、以前に日商簿記2級を取得した際もTACで学習し講義が分かりやすかったことから、自然と迷わずTACを選び学習を開始しました。

Beckerを使用した方の合格率と、使用していない方の合格率では相当の差があるとのことや、Beckerは実際の試験により近い形で学習できる点などにも非常に魅力を感じました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

TACの講師の方々に共通して言えることは、どの方も「伝え方・例え話が上手い」という点が非常に優れていると感じました。ただ単にテキストを読み進めたり解答解説をするのではなく、分かりやすい身近な例え話に置き換えられることが多く、実際に私はテキストの余白部分に、その例え話を書き込んでいました。そうすることにより、学習した内容を、より具体的なイメージとリンクさせて記憶に定着させることが出来ますので、覚えやすく忘れにくいものになりました。

さらにTACの教材で言えることは、リーンなもの（無駄がない）であるという点です。どの講師の方も仰っておられましたが、「100点を目指す勉強は無駄で、要するに75点以上を取ればよい」というものでした。そういったことから、教材には無駄な箇所は殆どなく、またテキストの中でも「この箇所は厚めに！ここはサラッと。」など強弱の付け方まで講義中に教えて頂けるので非常に学習が捗りました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

なんば校にDVD視聴のため通学しました。DVDですと知識の曖昧な箇所を何度も繰り返して視聴できますので、とても重宝しました。学習開始から合格まではちょうど15ヶ月でした。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと/科目別）

・全般的なこと…まずはDVDを視聴し、しっかりと理解することを心掛けました。DVD視聴を1コマ終えるごとに問題集の該当箇所をこなし、ある程度講義が進んだところでパソコンでBeckerのPassMasterを解いていくことにしました。各科目の講義を終えると共に概ねBeckerのReview& PassMasterも一回転しているので、理解の浅い箇所・一度間違えた問題を重点的に復習することに努め、正答率が90%を超えるところまで持っていくようにしました。

各科目の本試験1カ月前にFinalExamをするようにしましたが、FinalExam自体は本試験よりも難易度は難しいとのことでしたので、あまり正答率に拘泥するのではなく、むしろタイムマネジメントを重視し、分かる問題からクリアし時間のロスを極力抑えることにしておりました。

その後は、いずれの科目においても、「ランダム100問」を繰り返し行い、間違えた問題に該当するテキストの箇所を再度読み込

み、知識のボトムアップを心掛けるようにしておりました。

- ・FAR…もともと簿記1級までの知識はありましたので、それほどの苦はなく、どの部分が日本の会計基準と異なるのかを理解し、学習を進めました。公会計は全くの初見ではありましたが、内田先生の「直対まとめ」を活用することにより、苦手意識は無くなり点数を稼げるまでにシフトすることができました。本番では、難易度も順調に上昇していき、タイムマネジメントもしっかり行うことができたので、なんとなく合格しているだろうという感覚であり、実際に82点で合格していたので、FARの勉強の進め方を他の科目にも当てはめていこうと自信を得ることができました。
- ・BEC…簿記1級の知識を持っていたため、BECの勉強はおおむね2カ月弱で終え、グアムで試験に臨みました。しかし、あなどっていたため、初回は4点足りずFailしてしまいました。やはり、初回は時間が足りず、Written Communication三問中1問を白紙で終えるはめになってしまい、つくづくこの試験はタイムマネジメントを意識しなくてはならないと感じました。その反面、わずか4点の不足であったことから、やはり勉強の進め方に大きな間違いは無いと思い、2回目に受けた際は、しっかりと時間管理を行い合格しました。
- ・REG…この科目は、まったく初見の内容でもあったことから、不安を持ちつつ学習を開始しました。しかし、内田先生の「分かりやすい例え話・直対まとめ」や杉浦先生の「出題されそうな箇所のランク付け」を活用し、ドンドンとREGに対する理解は深まり、初回で合格させて頂きました。講義中にコアとなる箇所を的確に指摘して頂いたため、無駄な箇所に時間を割くことはなく、基本をしっかりと固めることが出来たのが、初回合格の決め手であると思います。
- ・AUD…この科目も、初めて学習する内容であったことから、注意を払い学習を進めました。しかし、最後にAUDを学習するように組まれている、このカリキュラムは非常に合理的であったと感じました。それはUDの学習をすすめる内に、FARやBECなど他の科目で学習した内容がクロスオーバーして絡んでくる機会が多いと思ったからです。一見難しく感じてしまうAUDの内容でも、そのつど田中先生が「分かりやすく噛み砕いて」講義をすすめてくれるので、それほどの苦労はなく、しっかりと基本を理解することができ、実際の試験では一時間ほど余り、初回で合格を得ることができました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続は問題なく進みました。当初は日本受験が可能になるだろうと思っておりましたが、メイン州は日本受験に不参加とのこと、ハワイでの受験になりました。

しかし、海外で受験した方が英語でのコミュニケーション力も向上できるし、合わせて海外旅行もでき、それもこの試験の醍醐味であると思いを切り換え、海外受験を楽しむようにしました。

最後の科目であるAUDの試験を終え受験センターを出た際は、合格しているかが不安でしたが、ふと空を見ると虹がかかっていたので「合格しているはずだ！」と自分に言い聞かせ、急いでワイキキビーチに遊びに行きました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

この試験は、愚直に教わったとおりに勉強を進めていくことが、合格への近道であると思います。言われた通りに基本をがっちり固め、タイムマネジメントを怠らないということが全ての科目にあてはまる要素であると感じました。一度不合格になってしまうと、枝葉末節な論点に走ったり、他の教材に手を出してしまう方もおられると聞きましたが、それはむしろ遠回りをするようになると思います。

他の教材を拝見する機会もありましたが、やはりTAC×Beckerの完成度の高さに遠く及んでいないと感じました。

また転職におきましても私自身は、以前は公務員として奉職しており、企業での経理経験は皆無ではありましたが、USCPA合格のち転職活動を開始し、商社での経理の仕事に就くことが決まりました。試験に合格することが全てではなく、これからも日々研鑽を積んでいかなくてはなりません。USCPA試験に合格したということは必ず評価されることであると実感しました。

これから受験される方は、なんら迷うことなくTAC×Beckerを信じ愚直に学習を進め、合格をつかみ取って頂きたいと思ひます。

あきらめたらそこで試合終了です



K.O さん

勤務先：商社

2012年2月 USCPA試験合格（グアム州）

FAR：75点（2010年8月／1回目）

BEC：76点（2012年2月／2回目）※1回目は合格後expire

REG：83点（2012年2月／5回目）

AUD：80点（2011年5月／3回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

身近な先輩や同僚が、USCPAの資格を取得していたこともあり、以前より興味がありました。単純に英語を勉強するだけではモチベーションが上がらなかった為、英語と会計の両方が学べる資格であることに魅力を感じました。日本では一般的に知名度が高くはない資格かも知れませんが、特に米国など海外でアピールできる資格であることも選択した理由の一つです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

TOEICは900点を超えていましたが、会計知識は少ししかありませんでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

先輩からの勧めもあり、TACを第一候補として幾つかの予備校を比較検討しました。通信講座があること、単位取得のコースが充実していること、また5年間継続再受講制度があったことなどから、総合的に判断して決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

特にREGの内田先生は非常に良かったです。まとめノートも素晴らしい、試験直前には内田先生のノートを必ず見てから臨みました。FARとBECに関しても、丁寧な解説があり非常に役に立ちました。一方、AUDに関しては、捉えどころがなかなか難しい科目でもあり、TACのテキストのみならず、BECKERの英語のテキストなども通読しておく必要があると感じました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学だと思えるように時間が取れないこともあり、通信講座(DVD)にしました。学習期間は単位取得期間も含め、全部で3年ほどかかりました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

土日と会社から帰宅した後の時間を勉強に充てました。最初はDVDを見ながらテキストを読み、その後はひたすらBECKERのMCを回転させていきました。SIMに関しては、直前に対策を行いました。とにかくMCを完璧にさせることを優先させました。REGに関しては、SIMもMC同様かなり出来るように対策を行うとともに、何回も不合格となってしまったため、BECKER以外の洋書のテキストも購入して解きました。AUDに関しては、SIMの対策には力を注ぎませんでした。REGと同様にBECKER以外の洋書のテキストを購入し、どの角度からの問題が出て回答できるように準備しました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

FAR：2テストレット目に難易度が上がった瞬間は嬉しかったです。問題の難しさに泣きそうになりました。3テストレット目は易しい問題になってしまい、SIMも全く出来なかったため、正直落ち

たと思っていたら、ギリギリで合格していました。

BEC：1回目で受験して合格したのですが失効してしまったため、2回目も受験しました。新試験になる前はWritingが無かったこともあり、スコアも高得点が出ましたが、2回目に受験した際は、テキストにあまりカバーされていない分野からの出題が多数あり、Writingも上手く記載出来なかったことから、1回目より点数が大幅に下がってしまいました。日本人に不利であるWritingは最低限記載できるように準備し、MCで基本的な問題はミスしないことが近道だと思います。

REG：個人的には最も苦労した科目で、AUDよりも難しく感じ、合格まで5回も掛かってしまいました。この科目のおかげで、せっかく合格したBECも失効してしまいました。米国人は普段からTax Returnに馴染みがあり有利であるため、MCでは基本的な問題は絶対に落とさないこと、Business Lawも細部の論点まで暗記すること、SIMも軽視せずに満点を取る意気込みで臨むことが大事です。

AUD：日本人が最も苦手とすると言われている科目で、3回目で漸く合格することが出来ました。試験後はそれなりの手応えがあっても不合格となってしまったこともあり。特に計算問題は出題されないためSIM用の特別な対策は不要ですが、点数が出にくい科目ですので、Research問題も決して捨てずに回答する必要があります。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

たとえ不合格になっても何回か受験する内に出題の傾向が分かってくるので、あきらめずに継続して受験することが大事です。あきらめたらそこで試合終了です。苦勞せずに短期間で合格する方もいらっしゃいますが、単位取得の時間も考慮すると、通常は相当な時間や費用が掛かってしまいますので、家族など周りの人の理解を得ることも非常に大事です。また、それなりの英語力が無いと微妙なニュアンスなどが読み取れず、Writingも上手く書けませんので、受験される際には最低限の英語力も身に付けておく必要があると思います。

また、一般的にはFARやBECからの合格を目指し、その後、比較的難易度の高いREGやAUDを勉強される方が多いと思いますが、18ヶ月の有効期間がありますので、敢えてREGやAUDの方から合格を目指すプランの方が良かったのではないかと思います。

私は、米国での受験、日本での受験、両方を経験しましたが、米国での受験の場合、フライトや宿の手配、会社への休暇願いの、渡航費用の負担など、受験する前にストレスを感じてしまいましたので、日本受験制度の開始は気軽に受験し易い環境になっていると思います。皆様が成功されることを心より祈っております。



勉強のスケジュールをきちんと立てて、合格を目指して頑張ってください！

祝 誠俊 さん

1977年8月生まれ
勤務先：大手監査法人
中国公認会計士

2012年2月 USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：93点（2012年2月／1回目）、BEC：83点（2012年2月／1回目）
REG：90点（2012年2月／1回目）、AUD：92点（2012年2月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

監査法人の同僚から、日本受験が始まるということを教えてもらいチャレンジしたいと考えました。渡米をせずに日本で受験ができることにメリットを感じました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力：TOEIC®TEST 800点程度

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

同僚がU.S.CPAの専門学校をリサーチしており、その中でもTACをおすすめしていましたので自分もTACにしました。実際に横浜校のガイダンスにも出席し、講師の方に丁寧にコースの概要を教えて頂いたこともTACに決めた理由です。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

TACの講義は重要なポイントを押さえており、とても分かり易い内容でした。
Becker教材も良くできており、試験範囲を網羅していました。
Becker教材が解ければ、本試験も合格できると思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

Becker上級コース（DVD通信講座）で学習しました。
学習期間：約5か月
学習時間：約800時間
平日は仕事後、土日はほとんどの時間を勉強に費やしました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

DVDを見る→テキストを読む→問題集を解く→直前対策の総まとめをやる
というサイクルをそれぞれの科目、3回転しました。
3回目は間違った問題だけをやりました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

学歴審査がうまくいきませんでした。10月に書類を送ったのですが、FACSの処理が遅く、何回も催促のメールをしましたが学歴審査に3ヶ月かかってしまいました。NTS（受験票）は1週間程度で送られてきましたので、何とか2月に受験をすることができました。

エピソードとしては、私は横浜西口の試験会場で本試験を受験したのですが、試験の途中で休憩を取るときにPCがフリーズしてしまうというハプニングに見舞われました。

試験会場の係りの人に事情を説明して解答がきちんと記録されているか確かめて先に進みましたので、結果的には問題はありませんでした。びっくりしました。

これから受験される方は、そういう事もありえますので何かありましたら係りの人を呼んで説明をして対処して頂くのが良いと思います。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPAの合格には勉強のスケジュールを立てることが一番大切だと思います。

私も10月から勉強を始めて2月に合格するためのスケジュールをエクセルで立てました。

横浜校で最初に講師より800時間くらいの勉強時間が必要とアドバイスを頂きましたので、それを達成できるように逆算をしてスケジュールを立てました。

U.S.CPAはきちんと勉強すれば合格できる試験だと思いますので、皆さんもスケジュールをきちんと立てて合格を目指して頑張ってください。

TAC 講義・問題集のみで一発合格は十分可能、プラス BECKER で完璧



H.N さん

早稲田大学 商学部 1993年卒

2012年1月 USCPA試験合格(メイン州)

FAR : 79点 (2012年1月/1回目)、BEC : 75点 (2012年1月/1回目)

REG : 92点 (2012年1月/1回目)、AUD : 96点 (2012年1月/1回目)

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは?

外資系企業の日本法人で経理財務部門のトップに近い地位まで来たのですが、それまで管理会計系の職歴がメインだったため、実務上至る所で財務会計の知識・経験不足を痛感しました。特に、ある程度馴染みがあり、仕事上の必要に応じて情報収集が可能な日本の会計原則・税法とは違い、USGAAPは基礎から作り上げて行かなければ、今後のキャリアアップに行き詰るだろうと考えたためです。

また留学も海外駐在の経験も無い私にとって、資格制度・高等教育・会計人に対する社会的要求等、米国における会計界の常識を少しでも身に付けることで、より根本的にビジネス上の文化差について理解することができるようになるだろうと考えたことも、理由の一つです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は?

会計知識：実務経験はありますが、資格は日商簿記2級のみ
英語知識：英検1級、TOEIC®TEST 900点

Q3 TACをお選びいただいた理由は?

2008年に受講したRoute99の5年間継続再受講制度を利用しました。ちなみに2008年は仕事が多忙だったため、殆ど講義DVDを聴くことはできませんでした。2008年申込時に、このようなこともあるかと予測していたのが、功を奏しました。

また教材として、BECKERに大変魅力を感じていたこともあります。

Q4 TACの講座でよかったところ(講師、教材、カリキュラムなど)

終わってから振り返ると、全て良かった、ということになるのですが、先ず一回受験を経験するまでの学習期間は、その大半が無職の時期だったこともあり、先が見えず不安で苦しかったというのが実感です。

科目が進むにつれ、不安が大きくなっていったもの一つとして、例えばあらゆる重要論点について理論的に理解できていたとしても、どの科目も大体3割程度は暗記的要素があるため、受験時にいかに記憶を維持しているか、という量的な問題がありました。その点、内田先生のTAX・NPAは、一般的な記憶力の人が現実的に覚えていられる範囲の中で合格点を狙うという、実践的かつ合理的な工夫が施された講義だったと思います。

草野先生のFARは興味を引く話術で、学習意欲をかき立てられましたし、渡辺先生のMAは立て板に水、講義の流れに美しさすら感じる程分かりやすい説明で、印象に残っています。

また勉強方法に不安を感じていた時、2度も阿辺先生に個別面談していただき、救われた思いがしました。この感謝の念は、忘れることができません。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか?合格までの学習期間は?

DVD通信で10か月(2011年4月~2012年1月)

2012年7月に会社を退職し、その後6か月は学習に専念しました。

ただ上記学習期間の内、1か月弱位は受験手続に追われていた感があります。特に学歴審査・出願時期の2011年5~7月位は、日本受験開始に伴う一時的混乱もあり(どの州が日本受験に参加するか流動的で、また今回日本受験に参加できなかった州は、今後参加するために単位要件を引き上げるなどの噂が飛び交った)、1科目分弱位の時間と労力を費やした気がします。USCPA試験は4科目ではなく、特に米国外の受験生にとっては、受験手続を入れて5科目なのではないか、という感すらあります。

Q6 合格までの学習法(一般的なこと/科目別)

先ず4科目通して、各章ごとにDVD聴講→TAC問題集という形で進めたのですが、一言一句聴き逃すまいと、何度もDVDを止めていたので、無職の学習専念期ですら一日一枚のペースで聴くことができず、結局4科目に7か月以上(内4か月は専念期)費やしました。

学習開始当初は、USCPAは見しいというインターネット上の風説に惑わされた所もあり、日程的にも甘く見えておりました(2011年11月下旬には、余裕を持って4科目受験できると思っていました)。NTSが出願からわずか1週間程度で来てしまった誤算も重なり、6か月の有効期限ぎりぎりの2012年1月まで受験日程を伸ばしたものの、結局TACテキスト・問題集を4科目分終えた時、本試験までの時間は2か月程度しか残されていませんでした。

色々悩んだ末、2科目合格を狙うのが最も確実だろうということで、残り2科目はREGとAUDの直前対策とBECKERに絞り、FARとBECの直前対策とBECKERには手が付けられませんでした。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

上記の通り、NTS有効期限の都合で止むを得ず4科目受験するも、実質REGとAUDの2科目合格狙いで、FARとBECは捨てていたので、正直4科目合格という結果には大変びっくりしました。受験時の手応えでは、AUDは自信があったものの、REGは微妙と思っていた位だったので、大変幸運に恵まれました。

一回のグアム渡航で4科目受験した訳ですが、テストセンター徒歩圏の一泊60°程度のホテルに2週間近く滞在することで、当初合格を狙っていたREGとAUDの間隔を1週間程度空けたのですが、これが功を奏し、AUDの高得点合格につながったと考えています。

2週間のグアム滞在期間中は、手違いもあって携帯もWi-Fiも使えず、周りに観光客も余り居ない環境だったので、辛いながらも非常に勉強に集中することができました。ただ毎日の買物でアガニアのスーパーまで歩いて行った際、少なくとも明るい内は治安的な危険は殆ど感じなかったのですが、極端な車社会で歩行者が殆ど居ない(横断歩道の押しボタン信号の作動が遅い、または作動しない、歩行者用信号の時間が短く走らなると渡れない、歩道は広いものの、ドライバーもまさか歩行者が居るとは思っていない様子)ため、交通的にはやや危ない思いをしました。

試験中はできるだけトイレに行かないよう、前日位から結構構えを使っていました。結局FARのみ試験中に行ったのですが、大体7分位使いました。7分と言えば、MCが3~4問解ける時間ですが、FAR・AUDは4時間の試験なので時間的に挽回はまずいですし、準備をして臨んだREG・AUDは例えその時間口スで失点していたとしても、結果論的には否否に影響なかった、ということになります。今から思うと、トイレの時間口スが否否を分ける可能性は絶対無いとは言いませんが、特に長期滞在する場合は、全般的な体調管理の方がより大事なのではないかと感じています。

テストルームは予想していたより寒かったです。街中では、現地の人や観光客から見ると、襟付きの長袖シャツを着ているだけで少々異様なのですが、テストルームは、その上に半袖のベストを羽織ってもまだ寒く、長袖のカーディガンで丁度良かったです。

受験手続については、日本受験開始に伴う一時的混乱の中、結局メイン州に申し込んだのですが(今から思うと、2012年1月受験に間に合わせるのであれば、2011年8月にブラッドリー大学の追加単位を取得したので、日本受験可能なニューハンプシャー州でも良かった)、2011年5月の学歴審査時の段階で既に噂に上がっていた(実際2012年2月に引き上げられた)受験要件引き上げへの備えと、合格後ワシントン州でのライセンス取得の目的を兼ねて、ブラッドリー大学の単位を7科目21単位追加取得しました(出身大学で4単位の会計単位がありました)。

メイン州出願に必要な3人分の推薦状には苦労しました。私の場合、家族・親類以外で、外国のよく分からない資格の、英語で書かれた推薦状にサインしてくれる人を3人探すのは容易なことではなく、職場の同僚や旧友、実家の近所ですらでも可能性のある人に頭を下げまくり、奔走の結果何とか3人確保しました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

FARとBECは試験の半年前にDVD聴講とTAC問題集を一通りやっただけ、総まとめもBECKERも復習も殆ど何もしないで(前日にWC対策だけ1時間分聴講しましたが)、ギリギリの点数ながら幸運にも合格できました。ただ今から思うと、本試験より5か月前に受けたFARとMAの単位取得試験の際、ちょっとしたまめをしたのが本試験で生きたのかも知れません。

しかしBECKERを2~3回聴(2回目以降は、1回目でも不正解ないしマークしたもののだけ)やっただけREGとAUDとの点数差は17点と、その差は歴然です。時間のある人は、絶対BECKERをお勧めします。自信と余裕を持って受験できます。

特にAUDは、最初面食らったのですが、日本の大学受験で言えば現代国語のような「さて、この場合監査人は何を考えるでしょうか」といった出題が多く、他の3科目のように、理論なり数式なり暗記なりで明確に一つの答えが導き出されるものとはタイプが違うため、BECKERで出題の傾向を押さえておくことが有効です。実際にBECKERで演習していくと、決して現代国語ほど曖昧なものではなく、パターンがあることが分かってきます。

ただ、もし時間不足で直前対策やBECKERまで十分に手が回らなかった科目があったとしても、決して最後まで諦めないで下さい。端的な記憶のみを問うMCは覚えていないと答えられませんが、それ以外の問題については、TAC講義・問題集を一通りやっていたら、問題文の中にあるヒントと、覚えていた論点の断片をつなぎ合わせることで、何とか食らいつけます。100%自信は無くとも、何となく答えられるセンスが身に付いていることがあります。

受験手続は出願州の決定に始まり、複雑怪奇かつコロコロ制度が変わるので、後から考えると、もっと時間が短縮できた、早期合格できた、費用が安く済んだ(それも何か月あるいは何十万単位で)、ということはよくあるのですが、(難しいですが)余り一喜一憂せず、受験を断念しなくて済んで良かった、位の大雑把なプラス思考で丁度いいのではないかと思います。

最後になりますが、TAC講義・問題集のみで一発合格は十分可能、プラスBECKERで完璧、というのが私の実体験から来る結論です。以上、少しでも皆様のご参考になりましたら幸いです。



日米の公認会計士試験に合格したことで、自分の可能性を更に広げることができました！

荒木 雄祐 さん

1989年9月生まれ
早稲田大学 政治経済学部政治学科 2012年3月卒業
勤務先：大手監査法人
公認会計士試験合格（2010年11月）

2012年1月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：86点（2012年1月／1回目）、BEC：84点（2012年1月／1回目）
REG：94点（2012年1月／1回目）、AUD：98点（2012年1月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

1. 大学3年の時に日本の公認会計士試験に合格し内定も決まりました。一般的には3年～4年次に就職活動をしますが、幸い自分は内定が決まりましたので4年次を遊ぶだけではなく、何か次のステップに向けて動き出すべきだと思ったのでUSCPAを取得することにしました。
2. 日本の会計士だけですと市場は国内ですが、USCPAを取得することによって市場が日本とアメリカの2倍に膨らむため、資格取得のメリットを感じました。
3. IFRSについては当面の間は適用延期という話になりましたが、将来的には会計を英語の原文で理解する時代が来ると思っているため、今のうちにUSCPAを取得することにしました。
4. 日本の公認会計士試験に合格できたので、もう1つまた違う資格にチャレンジしよう、自分ならできると考えたこともきっかけです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力：TOEIC®TEST 800点前半

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

- ・公認会計士講座をTACで受講していたので、カリキュラムや教材の質に安心感があった。
- ・日本の公認会計士講座の平石講師が米国公認会計士講座のFARの部分も担当しているなど講座間の連携があるので、日米の会計・監査の違いの対応もしっかりできていると思ったから。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

Beckerと提携していることが非常に大きかったです。

教材の質はもちろんのこと、洋書もありますし、問題集をやれば合格するという安心感がありました。

カリキュラムですが、自分は日本の公認会計士講座を受講していましたので、USCPA講座の99回は楽だと感じました。会計監査のバックグラウンドはありましたが、講義を聞くと理解がより深まることも多く改めて勉強になりました。

講師ではレギュレーションの内田先生が印象的でした。特に内田先生のまとめテキストは試験に出題されるポイントが効率よくまとまっていたので重宝しました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

- ・通学ビデオ（DVD）コース
- ・学習期間：入学から10ヶ月程度
（最初の4ヶ月は大学の単位取得とブラッドリー大学の単位を取得、残り6ヶ月で本試験勉強）

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

【全般的なこと】

講義を聞き、テキストを読み、その後Beckerを解きました。
Beckerは量が多いので、まず紙ベースで1回解きました。

間違えた問題や分からなかった問題に、その問題のポイントやどういう知識が無いと解けないかを書いておき、そして直前期に見直すことを全科目行いました。

この方法は直前期にどこをやろうと思ったときに、そのポイントを確認すれば苦手の分野を一気にフォローできるのでおすすめです。

【科目別】

FAR、AUDは日本の会計士試験でも学習しましたので、日本との違いを重点的におさえました。AUDは7割くらいは被ると思いますが、日本ではあまり学習しない監査の報告論は重点的に学習しました。

BECはWritten Communicationがありますので、週1回くらい15分で200語くらい書けるように練習しました。

REGは申告書の作成問題がやり難いので、フォーマットを眺めて慣れるようにしました。申告書は日本と全く違うので慣れることがポイントだと思います。

パソコンの演習は本試験の1か月くらい前からやり、Final Examは1週間前くらいに解きました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続：個人的には1番大変でした。

TACは受験手続のサポートが手厚かったです。

HPもありますし、実際に願書のチェックも講師にして頂くこともでき助かりました。

受験地：グアム

時差も少なく、残った時間で観光もできるグアムを選びました。

ホテルから会場まで15分くらいのところに滞在したのですが、海から徒歩20秒でしたので、試験前に海を眺めてリフレッシュしてから試験に臨めました。

試験後は観光もできましたので、楽しく受験ができました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

試験を受けて思ったのは、手応えと結果が比例しない試験だということです。

私の場合はFARの時間が足りなくて、Simulation問題を最後まで解くことができませんでした。手応え的には厳しいなと思ったのですがふたを開けてみれば86点で合格していました。結果は出るまで分かりませんので、試験中にくじけそうになっても最後まであきらめないことが大切だと改めて実感しました。

これから合格を目指される方へのメッセージとしては、合格した後の姿をイメージして頑張ってください。試験に合格するためには、合格後のイメージを具現化して走り続けることが大切だと思います。モチベーションを維持できれば合格できる試験だと思います。ぜひ合格を目指して頑張ってください。